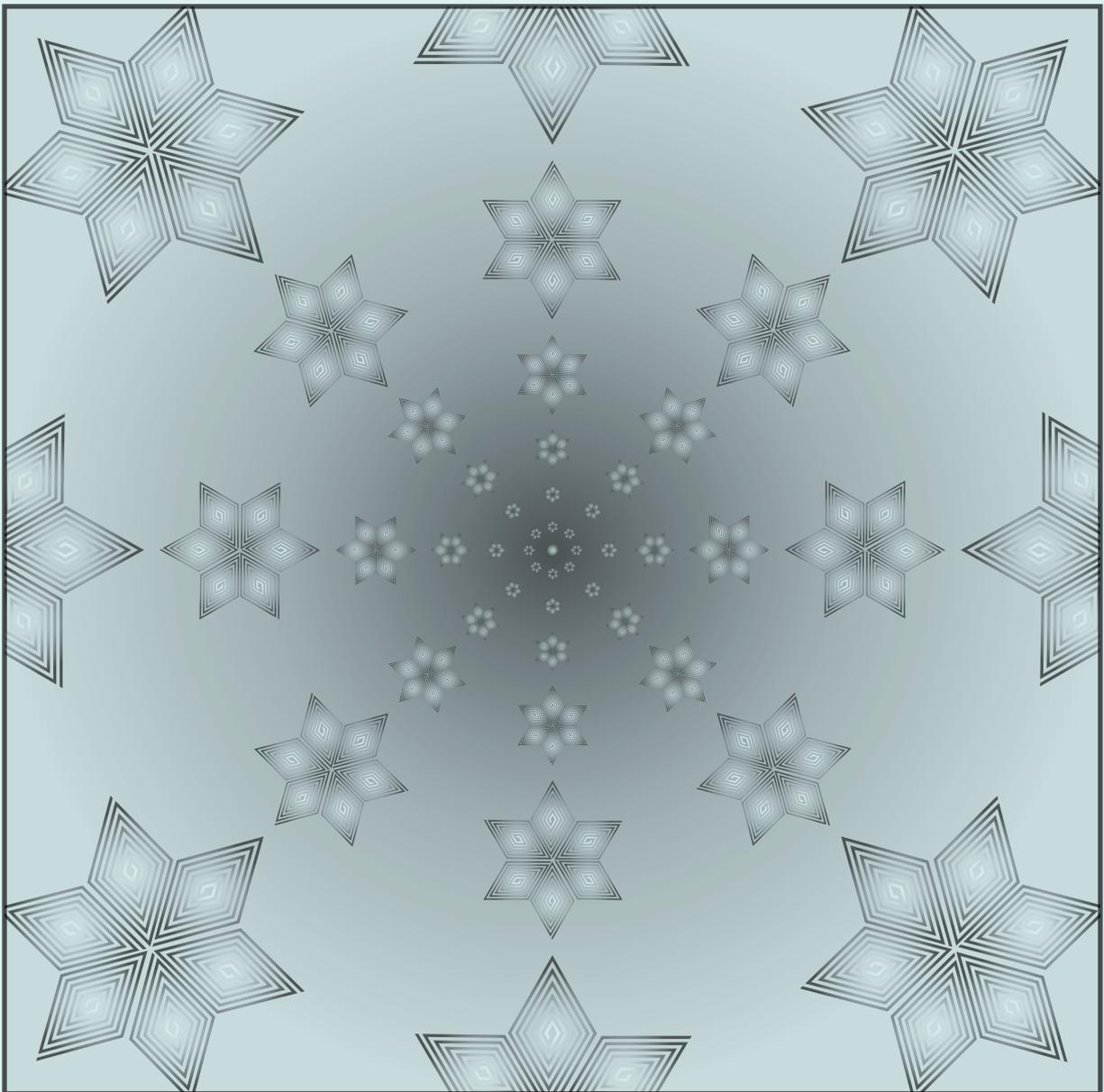

2013年度

シラバス

フランス語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

—— 総 合 目 次 ——

シラバスの見方 2

2008 年度以降入学者用目次
..... 3

外国語学部共通科目（2003 年度以降入学者用）
..... 6

担当者別授業内容 7

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	経： 経済学部
独： ドイツ語学科	養(*1)： 国際教養学部、スペイン語履修者	済： 経済学科
英： 英語学科	養(*2)： 国際教養学部、中国語履修者	営： 経営学科
仏： フランス語学科	養(*3)： 国際教養学部、韓国語履修者	環： 国際環境経済学科
交： 交流文化学科		法： 法学部
言： 言語文化学科		律： 法律学科
言(*1)： 言語文化学科、スペイン語履修者		国： 国際関係学学科
言(*2)： 言語文化学科、中国語履修者		総： 総合政策学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

08～13年度……2008～2013年度入学者

03～07年度……2003～2007年度入学者

07年度以前……2007年度以前入学者

08年度以降……2008年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。

開講学期に注意してください。

フランス語学科 授業科目 (2008年度以降入学者用 目次)

学科基礎科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照してく ださい。	春	1	1	全	7
フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	7
フランス語Ⅰ(講読)既修者のみ		春	1	1	全	8
フランス語Ⅱ(講読)既修者のみ		秋	1	1	全	8
フランス語Ⅰ(総合)		春	1	1	全	9
フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	9
フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ		春	1	1	全	10
フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ		秋	1	1	全	10
フランス語Ⅰ(会話)未修者のみ		春	1	1	全	11
フランス語Ⅱ(会話)未修者のみ		秋	1	1	全	11
フランス語Ⅰ(LL)		春	1	1	全	12
フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	12
フランス語Ⅲ(文法)		授業時間割表を参照してく ださい。	春	1	2	全
フランス語Ⅳ(文法)	秋		1	2	全	13
フランス語Ⅲ(講読)	春		1	2	全	14
フランス語Ⅳ(講読)	秋		1	2	全	14
フランス語Ⅲ(総合)	春		1	2	全	15
フランス語Ⅳ(総合)	秋		1	2	全	15
フランス語Ⅲ(TP) 既修者のみ	春		1	2	全	16
フランス語Ⅳ(TP) 既修者のみ	秋		1	2	全	16
フランス語Ⅲ(会話)未修者のみ	春		1	2	全	17
フランス語Ⅳ(会話)未修者のみ	秋		1	2	全	17
フランス語Ⅲ(構文)	春		1	2	全	18
フランス語Ⅳ(構文)	秋	1	2	全	18	

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス芸術文化入門Ⅰ	福田 美雪	春	木1	2	1		19
フランス芸術文化入門Ⅱ	福田 美雪	秋	木1	2	1		19
フランス現代社会入門Ⅰ	小石 悟	春	水3	2	1		20
フランス現代社会入門Ⅱ	小石 悟	秋	水3	2	1		20

学科共通科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語Ⅰ	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	21
総合フランス語Ⅱ	授業時間割表を参照してください。	秋		2	3	全	21
フランス語文章表現法Ⅰ	C. パジエス	春	月3	2	3		22
フランス語文章表現法Ⅱ	C. パジエス	秋	月3	2	3		22
フランス語文章表現法Ⅰ	Ch. ペリセロ	春	火3	2	3		23
フランス語文章表現法Ⅱ	Ch. ペリセロ	秋	火3	2	3		23
フランス語文章表現法Ⅰ	S. ジュンタ	春	火4	2	3		24
フランス語文章表現法Ⅱ	S. ジュンタ	秋	火4	2	3		24
フランス語文章表現法Ⅰ	横地 卓哉	春	水2	2	3		25
フランス語文章表現法Ⅱ	横地 卓哉	秋	水2	2	3		25
フランス語文章表現法Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木2	2	3		26
フランス語文章表現法Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木2	2	3		26
フランス語文章表現法Ⅰ	小石 悟	春	木3	2	3		27
フランス語文章表現法Ⅱ	小石 悟	秋	木3	2	3		27
フランス語文章表現法Ⅰ	B. レウルス	春	金2	2	3		28
フランス語文章表現法Ⅱ	B. レウルス	秋	金2	2	3		28

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜日	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語会話Ⅰ	S. ジュンタ	春	火2	2	3		29
フランス語会話Ⅱ	S. ジュンタ	秋	火2	2	3		29
フランス語会話Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	水2	2	3		30
フランス語会話Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	水2	2	3		30
フランス語会話Ⅰ	M. デルヴロワ	春	金2	2	3		31
フランス語会話Ⅱ	M. デルヴロワ	秋	金2	2	3		31
フランス語会話Ⅰ	J. ファヴロ	春	金3	2	3		32
フランス語会話Ⅱ	J. ファヴロ	秋	金3	2	3		32
ビジネスフランス語Ⅰ	C. パジェス	春	月2	2	3		33
ビジネスフランス語Ⅱ	C. パジェス	秋	月2	2	3		33
上級フランス語Ⅰ	井上 美穂	春	木3	2	3		34
上級フランス語Ⅱ	井上 美穂	秋	木3	2	3		34
フランス語圏事情Ⅰ	休講						
フランス語圏事情Ⅱ	休講						

学科専門科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜日	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学論Ⅰ	田中 善英	春	火1	2	2		35
フランス語学論Ⅱ	田中 善英	秋	火1	2	2		35
フランス語文章理論Ⅰ	小石 悟	春	火1	2	3		36
フランス語文章理論Ⅱ	小石 悟	秋	火1	2	3		36
フランス語言語教育論Ⅰ	中村 公子	春	水1	2	2		37
フランス語言語教育論Ⅱ	中村 公子	秋	水1	2	2		37
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	古川 直世	春	火3	2	3		38
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	古川 直世	秋	火3	2	3		38
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	PH. ヴァネ	春	月2	2	3		39
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	月2	2	3		39
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	小石 悟	春	火2	2	3		40
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	小石 悟	秋	火2	2	3		40
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田中 善英	春	水1	2	3		41
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田中 善英	秋	水1	2	3		41
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	中村 公子	春	木2	2	3		42
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	中村 公子	秋	木2	2	3		42
フランスの美術Ⅰ	阿部 明日香	春	水1	2	2	交	43
フランスの美術Ⅱ	阿部 明日香	秋	水1	2	2	交	43
フランスの音楽Ⅰ	松橋 麻利	春	木2	2	2	交	44
フランスの音楽Ⅱ	松橋 麻利	秋	木2	2	2	交	44
フランスの舞台芸術Ⅰ	江花 輝昭	春	木2	2	3		45
フランスの舞台芸術Ⅱ	江花 輝昭	秋	木2	2	3		45
フランス文学史Ⅰ	田村 毅	春	月3	2	2		46
フランス文学史Ⅱ	田村 毅	秋	月3	2	2		46
フランスの文学Ⅰ	福田 美雪	春	木3	2	3		47
フランスの文学Ⅱ	福田 美雪	秋	木3	2	3		47
フランス芸術文化各論Ⅰ	田村 毅	春	水2	2	3		48
フランス芸術文化各論Ⅱ	田村 毅	秋	水2	2	3		48
フランス芸術文化講読Ⅰ	田村 毅	春	月2	2	3		49
フランス芸術文化講読Ⅱ	田村 毅	秋	月2	2	3		49
フランス芸術文化講読Ⅰ	横地 卓哉	春	月2	2	3		50
フランス芸術文化講読Ⅱ	横地 卓哉	秋	月2	2	3		50
フランス芸術文化講読Ⅰ	阿部 明日香	春	月4	2	3		51
フランス芸術文化講読Ⅱ	阿部 明日香	秋	月4	2	3		51
フランス芸術文化講読Ⅰ	江花 輝昭	春	火2	2	3		52
フランス芸術文化講読Ⅱ	江花 輝昭	秋	火2	2	3		52
フランス芸術文化講読Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		53
フランス芸術文化講読Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		53
フランス芸術文化講読Ⅰ	福田 美雪	春	木4	2	3		54
フランス芸術文化講読Ⅱ	福田 美雪	秋	木4	2	3		54
フランス芸術文化講読Ⅰ	谷口 亜沙子	春	金2	2	3		55
フランス芸術文化講読Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	金2	2	3		55

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス地域論Ⅰ	鈴木 隆	春	水2	2	3		56
フランス地域論Ⅱ	鈴木 隆	秋	水2	2	3		56
フランスの歴史Ⅰ	藤田 朋久	春	水2	2	2		57
フランスの歴史Ⅱ	藤田 朋久	秋	水2	2	2		57
フランスの政治経済Ⅰ	尾玉 剛士	春	月2	2	2	交	58
フランスの政治経済Ⅱ	尾玉 剛士	秋	月2	2	2	交	58
フランスの政治経済Ⅰ	廣田 愛理	春	水2	2	2	交	59
フランスの政治経済Ⅱ	廣田 愛理	秋	水2	2	2	交	59
フランス現代思想Ⅰ	谷口 亜沙子	春	火4	2	3		60
フランス現代思想Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	火4	2	3		60
現代フランス論Ⅰ	尾玉 剛士	春	月3	2	2		61
現代フランス論Ⅱ	尾玉 剛士	秋	月3	2	2		61
フランス現代社会各論Ⅰ	PH. ヴァネ	春	水1	2	3		62
フランス現代社会各論Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	水1	2	3		62
フランス現代社会講読Ⅰ	鈴木 隆	春	月3	2	3		63
フランス現代社会講読Ⅱ	鈴木 隆	秋	月3	2	3		63
フランス現代社会講読Ⅰ	竹内 久雄	春	月3	2	3		64
フランス現代社会講読Ⅱ	竹内 久雄	秋	月3	2	3		64
フランス現代社会講読Ⅰ	藤田 朋久	春	火2	2	3		65
フランス現代社会講読Ⅱ	藤田 朋久	秋	火2	2	3		65
フランス現代社会講読Ⅰ	田村 毅	春	水4	2	3		66
フランス現代社会講読Ⅱ	田村 毅	秋	水4	2	3		66
フランス現代社会講読Ⅰ	廣田 愛理	春	木2	2	3		67
フランス現代社会講読Ⅱ	廣田 愛理	秋	木2	2	3		67
フランス現代社会講読Ⅰ	M. デルヴロワ	春	金3	2	3		68
フランス現代社会講読Ⅱ	M. デルヴロワ	秋	金3	2	3		68

交流文化論(09年度以降入学者)

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
交流文化論(サステイナブル・ツーリズム論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養 経・法	69
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	遠藤 充信	春	水3	2	2	交・養 経・法	70
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	水4	2	2	交・養 経・法	71
交流文化論(メディア・ライティング論)	横村 出	春	水4	2	2	交・養 経・法	72
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	遠藤 充信	春	木3	2	2	交・養 経・法	73
交流文化論(表象文化論)	休講						
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	金2	2	2	交・養 経・法	74
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	金3	2	2	交・養 経・法	75
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養 経・法	76
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	井上 泰日子	秋	水1	2	2	交・養 経・法	77
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	水4	2	2	交・養 経・法	78
交流文化論(ツーリズム文化論)	遠藤 充信	秋	木3	2	2	交・養 経・法	79
交流文化論(パフォーマンス研究)	高橋 雄一郎	秋	木4	2	2	交・養 経・法	80
交流文化論(ツーリズム・メディア論)	倉澤 治雄	秋	金1	2	2	交・養 経・法	81
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	金2	2	2	交・養 経・法	82
交流文化論(市民参加のまちづくり論)	北野 収	秋	金3	2	2	交・養 経・法	83
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養 経・法	84

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	片山 亜紀	春	水3	2	1	養・経・法	85
総合講座	佐野 康子	秋	水3	2	1	養・経・法	85
総合講座	廣田 愛理	春	水1	2	1	養・経・法	86
総合講座	廣田 愛理	秋	水1	2	1	養・経・法	86
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	87
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						88~90
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	木1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	木1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						91~94
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	95
(言語情報処理1)	吉成 雄一郎	春	金2	2	2	英・養・経・法	96
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	95
(言語情報処理2)	吉成 雄一郎	秋	金2	2	2	英・養・経・法	96
(HTML)情報科学各論	各担当教員						97
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	98
経済原論a	野村 容康	春	木2	2		養・経・法	99
経済原論b	野村 容康	秋	木2	2		養・経・法	99
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

フランス語学科シラバス

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (文法) フランス語 Ia (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週2回(1コマずつ)、既修クラスは週1回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		(クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで春学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。) 冠詞 名詞・形容詞の男性形・女性形と単数・複数 形容詞の位置 所有形容詞 指示形容詞 疑問形容詞 比較級と最上級 直説法現在の動詞の活用 (être, avoir, -er, -ir, 不規則動詞) 否定形と疑問形 否定文中の de 冠詞の縮約 近接未来と近接過去 代名動詞 等 (順不同)	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (文法) フランス語 Ib (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		(クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで秋学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。) 直説法複合過去・半過去・大過去 直説法単純未来・前未来 命令法 受動態 感嘆文 中性代名詞 人称代名詞 (直接目的、間接目的、強勢形) 関係代名詞 指示代名詞・所有代名詞・疑問代名詞 条件法 話法 (直接話法と間接話法) 接続法 現在分詞とジェロンディフ 使役動詞 (faire と laisser) 等 (順不同)	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (講読) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ia (講読) (既修クラスのみ履修)	担当者	林 ゆき
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としており、1年生では既修クラスのみ履修します。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に担当教員より説明があります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (講読) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ib (講読) (既修クラスのみ履修)	担当者	林 ゆき
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (総合) フランス語 Ia (総合)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。この授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Champion I</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Reflets I</i> を使います。</p> <p>未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。</p> <p>既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。</p> <p>進度や授業方法は担当の先生から最初の授業時に指示があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion I</i></td> <td><i>Reflets I</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 0</td> <td>Dossier 0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unité 1</td> <td>Dossier 1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unité 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td>Dossier 2</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unité 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unité 4</td> <td>Dossier 3</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Bilan 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td>Dossier 4</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unité 5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Unité 0	Dossier 0	2	Unité 1	Dossier 1	3			4	Unité 2		5		Dossier 2	6	Unité 3		7			8	Unité 4	Dossier 3	9			10	Bilan 1		11		Dossier 4	12	Unité 5		13			14	まとめ	まとめ	15		
	<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>																																																	
1	Unité 0	Dossier 0																																																	
2	Unité 1	Dossier 1																																																	
3																																																			
4	Unité 2																																																		
5		Dossier 2																																																	
6	Unité 3																																																		
7																																																			
8	Unité 4	Dossier 3																																																	
9																																																			
10	Bilan 1																																																		
11		Dossier 4																																																	
12	Unité 5																																																		
13																																																			
14	まとめ	まとめ																																																	
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (総合) フランス語 Ib (総合)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
同上。		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion I</i></td> <td><i>Reflets I</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 6</td> <td>Dossier 5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unité 7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unité 8</td> <td>Dossier 6</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Bilan 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unité 9</td> <td>Dossier 7</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unité 10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Unité 6	Dossier 5	2			3	Unité 7		4			5	Unité 8	Dossier 6	6			7	Bilan 2		8			9	Unité 9	Dossier 7	10			11	Unité 10		12			13	まとめ	まとめ	14			15		
	<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>																																																	
1	Unité 6	Dossier 5																																																	
2																																																			
3	Unité 7																																																		
4																																																			
5	Unité 8	Dossier 6																																																	
6																																																			
7	Bilan 2																																																		
8																																																			
9	Unité 9	Dossier 7																																																	
10																																																			
11	Unité 10																																																		
12																																																			
13	まとめ	まとめ																																																	
14																																																			
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
同上。		同上。																																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ia (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。教材や授業の進め方等については担当教員から最初の授業時に説明があります。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当教員より指示されます。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ib (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ia (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」、「LL」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p>進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ib (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (LL) フランス語 Ia (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1</i>、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Reflets 1</i> を使用します。どちらのクラスもこの授業は CAL 教室で行います。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p>進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Champion 1</i> <i>Reflets 1</i></p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (LL) フランス語 Ib (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (文法) フランス語 IIa (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は初級文法を習得した学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的としています。既修クラス、未修クラスともに週1回の授業です。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員から説明があります。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当の先生より指示されます。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (文法) フランス語 IIb (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (講読) フランス語 IIa (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語で書かれた簡単なテキストを読むことによって読解力を養うことを目的としています。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各担当教員から説明があります。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当の先生より指示されます。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (講読) フランス語 IIb (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (総合) フランス語 IIa (総合)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。授業は週2回あり(同日2コマ連続)、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i>、既修クラスでは <i>Reflets 2</i> を使用し、未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。</p> <p>授業の進め方等については、各担当教員から説明があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion 1</i></td> <td><i>Reflets 1</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 11</td> <td>Dossier 8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unité 12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>Dossier 9</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Bilan 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unité 13</td> <td>Dossier 10</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unité 14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>Dossier 11</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unité 15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>まとめ</td> <td>Dossier 12</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion 1</i>	<i>Reflets 1</i>	1	Unité 11	Dossier 8	2			3	Unité 12		4		Dossier 9	5	Bilan 3		6			7	Unité 13	Dossier 10	8			9	Unité 14		10		Dossier 11	11	Unité 15		12			13	まとめ	Dossier 12	14			15		
	<i>Champion 1</i>	<i>Reflets 1</i>																																																	
1	Unité 11	Dossier 8																																																	
2																																																			
3	Unité 12																																																		
4		Dossier 9																																																	
5	Bilan 3																																																		
6																																																			
7	Unité 13	Dossier 10																																																	
8																																																			
9	Unité 14																																																		
10		Dossier 11																																																	
11	Unité 15																																																		
12																																																			
13	まとめ	Dossier 12																																																	
14																																																			
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (総合) フランス語 IIb (総合)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
同上。		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion 1 & 2</i></td> <td><i>Reflets 2</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 16</td> <td>Dossier 1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Bilan 6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>Dossier 2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td><i>Champion 2</i> Unité 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unité 2</td> <td>Dossier 3</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unité 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>Dossier 4</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Bilan 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unité 4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion 1 & 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 16	Dossier 1	2			3	Bilan 6		4		Dossier 2	5	<i>Champion 2</i> Unité 1		6			7	Unité 2	Dossier 3	8			9	Unité 3		10		Dossier 4	11	Bilan 1		12	Unité 4		13		まとめ	14	まとめ		15		
	<i>Champion 1 & 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 16	Dossier 1																																																	
2																																																			
3	Bilan 6																																																		
4		Dossier 2																																																	
5	<i>Champion 2</i> Unité 1																																																		
6																																																			
7	Unité 2	Dossier 3																																																	
8																																																			
9	Unité 3																																																		
10		Dossier 4																																																	
11	Bilan 1																																																		
12	Unité 4																																																		
13		まとめ																																																	
14	まとめ																																																		
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1, 2</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>		同上。																																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 IIa (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。</p> <p>教材や授業の進め方等については担当教員から最初の授業時に説明があります。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当教員より指示されます。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 IIb (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIa (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブスピーカーが担当し、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。未修クラスのみ履修します。</p> <p>教科書は、「総合」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p>進度は「フランス語 III (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1, 2</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIb (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>進度は「フランス語 IV (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 06～07年度	フランス語 III (構文) フランス語 IIa (文章表現)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々なフランス語の構文理解と定着を目的とします。</p> <p>必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながらフランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。同時に文の構造を覚える観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。</p> <p>具体的な授業の進め方等については各担当教員から最初に説明があります。</p>		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 06～07年度	フランス語 IV (構文) フランス語 IIb (文章表現)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化入門 I フランス文学概論 a	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、フランスの芸術文化に関する基礎知識の習得、そして「フランス芸術文化」部門の専門科目への導入を目的としています。そのため、フランスの芸術・文化について、広範なテーマを概括的に学んでいきます。</p> <p>「フランス芸術文化入門 I」（春学期）では、歴史と文学史を概観したのち、現代文学、音楽、舞台や映像芸術、あるいはより日常的な娯楽など、フランス文化のさまざまな側面を学びます。1年生を主な対象者とするので、翻訳の抜粋や映像資料などを活用し、フランスならではの魅力に富んだ芸術文化に親しむ入口を開きます。</p> <p>この科目はフランス語学科の学科基礎科目になりますので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以上のことを了承した上で受講してください。</p> <p>初回に詳細を説明するので、必ず出席すること。</p>		<p>第1回：ガイダンス（福田美雪）</p> <p>第2回：フランスの歴史1（藤田朋久）</p> <p>第3回：フランスの歴史2（藤田朋久）</p> <p>第4回：フランス文学の流れ（谷口亜沙子）</p> <p>第5回：20世紀の文学1（谷口亜沙子）</p> <p>第6回：20世紀の文学2（谷口亜沙子）</p> <p>第7回：20世紀の文学3（谷口亜沙子）</p> <p>第8回：フランスの音楽1（松橋麻利）</p> <p>第9回：フランスの音楽2（松橋麻利）</p> <p>第10回：舞台・映画・娯楽1（横地卓哉）</p> <p>第11回：舞台・映画・娯楽2（横地卓哉）</p> <p>第12回：舞台・映画・娯楽3（横地卓哉）</p> <p>第13回：舞台・映画・娯楽4（横地卓哉）</p> <p>第14回：まとめ1（福田美雪）</p> <p>第15回：まとめ2（福田美雪）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントなど。</p> <p>参考文献は各教員から授業内に指示される。</p>		<p>学期末試験。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化入門 II フランス文学概論 b	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は上記参照。</p> <p>「フランス芸術文化入門II」（秋学期）では、春学期でとりあげたテーマをさらに深めるため、近代文学、美術と美術館のかかわり、食文化の豊かさやフランコフォニー（フランス語圏）の文化など、いずれもフランスの過去と現在をつなぐ重要なテーマについて学んでいきます。</p> <p>1年生を主な対象者とするので、視覚資料などを活用し、分かりやすくフランス芸術文化の全体像を提示します。全講義を通して、それぞれのテーマは別個に存在するのではなく、豊かに広がる文化の地平としてつながり、いまのフランスを形作っていることが理解されるでしょう。</p> <p>この科目はフランス語学科の学科基礎科目になりますので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以上のことを了承した上で受講してください。</p> <p>初回に詳細を説明するので、必ず出席すること。</p>		<p>第1回：ガイダンス（福田美雪）</p> <p>第2回：19世紀の文学1（伊藤幸次）</p> <p>第3回：19世紀の文学2（伊藤幸次）</p> <p>第4回：19世紀の文学3（伊藤幸次）</p> <p>第5回：フランスの美術館と美術1（阿部明日香）</p> <p>第6回：フランスの美術館と美術2（阿部明日香）</p> <p>第7回：フランスの美術館と美術3（阿部明日香）</p> <p>第8回：フランスの美術館と美術4（阿部明日香）</p> <p>第9回：フランスの食文化1（江花輝昭）</p> <p>第10回：フランスの食文化2（江花輝昭）</p> <p>第11回：フランスの食文化3（江花輝昭）</p> <p>第12回：フランスの食文化4（江花輝昭）</p> <p>第13回：フランコフォニー1（フィリップ・ヴァネ）</p> <p>第14回：フランコフォニー2（フィリップ・ヴァネ）</p> <p>第15回：まとめ（福田美雪）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントなど。</p> <p>参考文献は各教員から授業内に指示される。</p>		<p>学期末試験。</p>	

08年以降 07年以前	フランス現代社会入門Ⅰ フランス文化・社会概論 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代フランス社会を理解するために必要な基礎知識の習得を目的とする講義です。授業は複数の教員によるオムニバス形式で行います。春学期は右のテーマを取り上げます。</p> <p>一回目のガイダンスの授業では図書館セミナー（図書館で蔵書検索の仕方・各種データベースの検索方法などのセミナー）を行います。</p> <p>この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する場合には、以上のことを了承したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (4/10): ガイダンス (小石悟) 2. (4/17): フランスの地域 (鈴木隆) 3. (4/24): フランスの地域 (鈴木隆) 4. (5/1): フランスの地域 (鈴木隆) 5. (5/8): フランスの地域 (鈴木隆) 6. (5/15): フランス語と世界 (田中善英) 7. (5/22): フランス語と世界 (田中善英) 8. (5/29): フランス語と世界 (田中善英) 9. (6/5): フランス語と世界 (田中善英) 10. (6/12): フランスの教育と生活 (中村公子) 11. (6/19): フランスの教育と生活 (中村公子) 12. (6/26): フランスの教育と生活 (中村公子) 13. (7/3): フランスの地方生活 (水林ミシェル) 14. (7/10): 講演会 (予定) 15. (7/17): まとめ (小石悟) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。参考文献は教室で指示する。		試験	

08年以降 07年以前	フランス現代社会入門Ⅱ フランス文化・社会概論 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に同じ。</p> <p>ただし図書館セミナーは春学期にやっているので、秋学期は行いません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (9/25): ガイダンス (小石悟) 2. (10/2): 近代メディアの発展1: 風刺新聞 (福田美雪) 3. (10/9): 近代メディアの発展2: 連載小説 (福田美雪) 4. (10/16): フランスの政治経済 (廣田愛理) 5. (10/23): フランスの政治経済 (廣田愛理) 6. (10/30): フランスの政治経済 (廣田愛理) 7. (11/6): 近代メディアの発展3: ドレフュス事件 (福田美雪) 8. (11/13): 近代メディアの発展4: アンガージュマンの作家 (福田美雪) 9. (11/20): フランスの祝祭 (小石悟) 10. (11/27): フランスの祝祭 (小石悟) 11. (12/4): フランスの祝祭 (小石悟) 12. (12/11): フランスの社会と文学 (中世: 聖杯伝説と女性崇拜) (田村毅) 13. (12/18): フランスの社会と文学 (16世紀: 近代抒情詩の誕生) (田村毅) 14. (1/8): フランスの社会と文学 (17世紀: 古典演劇) (田村毅) 15. (1/15): まとめ (小石悟) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。参考文献は教室で指示する。		試験	

08年度以降 07年度以前	総合フランス語 I 総合フランス語 a	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Reflets 2</i> à partir du dossier 5 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion 2</i> à partir de l'unité 5.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p> <p><u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.</p>		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion 2</i></td> <td><i>Reflets 2</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 5</td> <td>Dossier 5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unité 6</td> <td>Dossier 6</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Bilan 2</td> <td>Dossier 7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unité 7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>Dossier 8</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unité 8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 7 (<i>Champion</i>).</p>			<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 5	Dossier 5	2			3			4	Unité 6	Dossier 6	5			6			7	Bilan 2	Dossier 7	8	Unité 7		9			10		Dossier 8	11	Unité 8		12			13		Révision	14			15		
	<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 5	Dossier 5																																																	
2																																																			
3																																																			
4	Unité 6	Dossier 6																																																	
5																																																			
6																																																			
7	Bilan 2	Dossier 7																																																	
8	Unité 7																																																		
9																																																			
10		Dossier 8																																																	
11	Unité 8																																																		
12																																																			
13		Révision																																																	
14																																																			
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.																																																	

08年度以降 07年度以前	総合フランス語 II 総合フランス語 b	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>Voir les explications du premier semestre.</p>		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion 2</i></td> <td><i>Reflets 2</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 9</td> <td>Dossier 9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Bilan 3</td> <td>Dossier 10</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unité 10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>Dossier 11</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unité 11</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>Dossier 12</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unité 12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Bilan 4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 10 ou 11 (<i>Champion</i>).</p>			<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 9	Dossier 9	2			3			4	Bilan 3	Dossier 10	5	Unité 10		6			7		Dossier 11	8	Unité 11		9			10		Dossier 12	11	Unité 12		12			13		Révision	14	Bilan 4		15		
	<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 9	Dossier 9																																																	
2																																																			
3																																																			
4	Bilan 3	Dossier 10																																																	
5	Unité 10																																																		
6																																																			
7		Dossier 11																																																	
8	Unité 11																																																		
9																																																			
10		Dossier 12																																																	
11	Unité 12																																																		
12																																																			
13		Révision																																																	
14	Bilan 4																																																		
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.																																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	C. パジエス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, cinéma, cuisine, voyages, société, etc.</p> <p>この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・映画・料理・旅行・社会問題など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 1 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 2 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 3 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 4 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Introduction du sujet de composition 5 15. Composition finale 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	C. パジエス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, cinéma, cuisine, voyages, société, etc.</p> <p>この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・映画・料理・旅行・社会問題など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 6 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 7 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 8 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 9 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Introduction du sujet de composition 10 15. Composition finale 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Pendant ce premier trimestre nous allons d'abord écrire des dialogues très simples et utiliser pour cela des bandes dessinées.</p> <p>Nous allons ensuite écrire à partir de situations diverses de la vie quotidienne : récit d'un voyage, pages d'un journal intime, etc.</p> <p>Pour finir le trimestre, nous écrirons un blog et dans ce blog vous pourrez décrire par exemple, un bon restaurant que vous connaissez ou un quartier de Tokyo que vous aimez.</p> <p>Ce cours vous permettra d'acquérir une expression écrite plus précise car nous allons revoir certains points de grammaire tels que : le passé composé, l'imparfait, le présent, le subjonctif, les pronoms relatifs, etc.</p>		<p>Mai : dialogues de bandes dessinées</p> <p>Juin : écrits de la vie quotidienne</p> <p>Juillet : création d'un blog</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Vous n'aurez pas à acheter de livres. Je vous donnerai des photocopies tous les mardis.		L'évaluation se fait à partir de l'assiduité, des devoirs (Deux devoirs par mois) et d'un examen final en juillet.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Le contenu de ce cours est différent de celui du trimestre de printemps mais les exercices sont les mêmes. Si vous avez suivi ce cours au printemps, vous pourrez, par exemple, approfondir vos connaissances en expression écrite et poursuivre votre blog.</p> <p>Ainsi, pendant ce premier trimestre d'automne nous allons d'abord écrire des dialogues très simples et utiliser pour cela des bandes dessinées.</p> <p>Nous allons ensuite écrire à partir de situations diverses de la vie quotidienne : récit d'un voyage, pages d'un journal intime, etc.</p> <p>Pour finir le trimestre, nous écrirons un blog et dans ce blog vous pourrez décrire par exemple, un bon restaurant que vous connaissez ou un quartier de Tokyo que vous aimez.</p> <p>Ce cours vous permettra d'acquérir une expression écrite plus précise car nous allons revoir certains points de grammaire tels que : le passé composé, l'imparfait, le présent, le subjonctif, les pronoms relatifs, etc.</p>		<p>Octobre : dialogues de bandes dessinées</p> <p>Novembre : écrits de la vie quotidienne</p> <p>Décembre : création d'un blog</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Vous n'aurez pas à acheter de livres. Je vous donnerai des photocopies tous les mardis.		L'évaluation se fait à partir de l'assiduité, des devoirs (Deux devoirs par mois) et d'un examen final en janvier.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dans ce cours nous apprendrons à composer de petits résumés [10 lignes environ] à partir d'un dialogue simple. Tous les éléments (vocabulaire, verbes, expressions, etc.) seront donnés et étudiés. Puis, les étudiants devront utiliser les éléments présentés pour rédiger le texte qui pourra ainsi servir de lettre, courriel, mémo ou tout autre document écrit (par exemple : résumé d'une interview ou d'un compte-rendu).</p> <p>この授業では簡単な会話から短いテキスト（約10行）の書き方を学びます。まず、語彙、動詞、表現などを紹介します。そして学んだ点を応用しながら手紙、メール、メモ、インタビューや書評の要約などといったテキストを書きます。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。（変更あり）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / programme de l'année 2. Présentation du sujet 1 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Présentation du sujet 2 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Présentation du sujet 3 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Présentation du sujet 4 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Petit travail sur table 15. Commentaires - Questions et réponses 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dans ce cours nous apprendrons à composer de petits résumés [10 lignes environ] à partir d'un dialogue simple. Tous les éléments (vocabulaire, verbes, expressions, etc.) seront donnés et étudiés. Puis, les étudiants devront utiliser les éléments présentés pour rédiger le texte qui pourra ainsi servir de lettre, courriel, mémo ou tout autre document écrit (par exemple : résumé d'une interview ou d'un compte-rendu).</p> <p>この授業では簡単な会話から短いテキスト（約10行）の書き方を学びます。まず、語彙、動詞、表現などを紹介します。そして学んだ点を応用しながら手紙、メール、メモ、インタビューや書評の要約などといったテキストを書きます。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。（変更あり）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / programme de l'année 2. Présentation du sujet 5 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Présentation du sujet 6 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Présentation du sujet 7 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Présentation du sujet 8 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Petit travail sur table 15. Commentaires - Questions et réponses 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	フランス文章表現法 I 和文仏訳 a	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読んでわかるフランス語を書く能力を身につける</p> <p>初等教育で母語についておこなわれるべき（と担当者が考えている）ことをフランス語についておこないます。「大学の授業」よりも小学校の授業に近いと思ってください。</p> <p>現時点でのフランス語の学力は問いません。</p> <p>「読んでわかる」ものを書くことが重要です。</p> <p>成績評価で AA・A が多い、仏検で比較的難易度の高い級に合格している、TCF で比較的高得点をとっている、などの理由で自分のフランス語の学力が高いと思込んでいるひとにこの能力が欠けることが非常にしばしばあります。また、実際に高い学力をもっているながら「読んでわかる」ものが書けないということもままあります。</p> <p>学力で劣るひと、苦手意識・劣等感などをもっているひと、とりあえず棚上げにしてみてください。授業の邪魔になることも、邪魔にすることも決してありません。</p>		<p>授業時間の内・外でしていただく作業により授業をすすめ、成績評価もこれによっておこないます。</p> <p>必然的に、授業に出てこないひとは単位を取得できないこととなります。（授業に出てこない場合、成績評価としては3年生ならば F または X、4年生ならば FG または X となります。——追試験、再試験は一切おこないません。）</p> <p>第1回目の授業で担当者が考えていることをもう少しくわしく説明し、可能な範囲内で質問にこたえます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は使いません。資料等は担当者が用意します。参考文献は授業中に順次紹介します。		上欄参照	

08年度以降 07年度以前	フランス文章表現法 II 和文仏訳 b	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランス文章表現法 I (担当者 横地)」参照		<p>「フランス文章表現法 I (担当者 横地)」参照</p> <p>第1回目の授業で春学期におこなったことを説明します。（他のこともおこないますので、春学期から継続して履修するひと出席してください。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「フランス文章表現法 I (担当者 横地)」参照		「フランス文章表現法 I (担当者 横地)」参照	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p>Contenu : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du premier semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p>Contenu : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du deuxième semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I 和文仏訳 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>フランス語学科では昨年から Lille 大学で日本語を勉強しているフランス人学生と <i>téletandem</i> と言う、「メールのやり取りによるペア学習」を行っています。授業以外で、先生以外のフランス人と実際にコミュニケーションする面白い試みですが、多少は相手に分かるフランス語を書くことが前提となります。作文が上達するためには、書いたものを直してもらって自分の間違いに気づくしかありません。この授業では、各人が書いてきた文をもとに、どうすればもっと良い文なるかを全員で考え、その過程で不足している文法事項、語彙などを徐々に身につけることを目指したいと思います。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：理由を表す文 1</p> <p>第3回：理由を表す文 2</p> <p>第4回：結果を表す文 1</p> <p>第5回：結果を表す文 2</p> <p>第6回：譲歩を表す文 1</p> <p>第7回：譲歩を表す文 2</p> <p>第8回：現在分詞を使って文を簡潔にする</p> <p>第9回：ジェロンディフを使って文を簡潔にする</p> <p>第10回：関係代名詞をうまく使い1</p> <p>第11回：関係代名詞をうまく使う2</p> <p>第12回：メールでの質問1</p> <p>第13回：メールでの質問2</p> <p>第14回：メールでの依頼1</p> <p>第15回：メールでの依頼2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II 和文仏訳 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：「フランス人のまっかなほん」と 1</p> <p>第3回：「フランス人のまっかなほん」と 2</p> <p>第4回：「フランス人のまっかなほん」と 3</p> <p>第5回：「フランス人のまっかなほん」と 4</p> <p>第6回：「日本人のまっかなほん」と 1</p> <p>第7回：「日本人のまっかなほん」と 2</p> <p>第8回：「日本人のまっかなほん」と 3</p> <p>第9回：「日本人のまっかなほん」と 4</p> <p>第10回：「イタリア人のまっかなほん」と 1</p> <p>第11回：「イタリア人のまっかなほん」と 2</p> <p>第12回：「イタリア人のまっかなほん」と 3</p> <p>第13回：「イタリア人のまっかなほん」と 4</p> <p>第14回：「イタリア人のまっかなほん」と 5</p> <p>第15回：「イタリア人のまっかなほん」と 6</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	B.レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『今どんなことが話題になっているか知りたい！だけどフランス語で新聞を読んだりテレビ番組を見たりするには vocabulary が足りない。語彙力を高めるだけではなく、話せるようになりたい、ちょっと書いてみたい、聞く練習もしたい・・・そんな授業があれば・・・』</p> <p>授業は、フランス語の広告、ポスター、テレビのC・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。</p> <p>Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse, médias, publicités, articles de magazines, sites internet, etc.). La compréhension est progressive : observation générale du document, exercices de compréhension, activités d'expression et enfin entraînement grammatical.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1・ フランス生活暦：年中行事・祭り・イベント(Pâques, fête de la Musique, 14 juillet) 2・ フランスにおける日本文化：マンガ・アニメ・和食・ブランド 3・ 食べるたのしみ：美食の国とスローフード 4・ 東京にある小さなフランス：カフェ・グルメ・イベント 5・ バカンスの過ごし方 6・ 恋愛観と結婚観：結婚とは過去のもの？（離婚・婚外の増加・片親家族） 7・ 世界最大の映画祭：カンヌ国際映画祭 8・ 交通機関と旅行 9・ フランス教育制度：大衆化&エリート主義 10・びっくり先進国フランス！French paradox(1) 11・びっくり先進国フランス！French paradox(2) 12・画家たちの愛したコート・ダジュール 13・カトリックの伝統と社会の変化 14・ヨーロッパの中のフランス：l'euro, notre monnaie. 15・まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「シヴィ・ラング」 « Civilangue » 駿河台出版社 ISBN 4-411-01105-3</p> <p>参考文献 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	B.レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今どんなことが話題になっているか知りたい！だけどフランス語で新聞を読んだりテレビ番組を見たりするには vocabulary が足りない。語彙力を高めるだけではなく、話せるようになりたい、ちょっと書いてみたい、聞く練習もしたい・・・そんな授業があれば・・・』</p> <p>授業は、フランス語の広告、ポスター、テレビのC・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。</p> <p>Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse, médias, publicités, articles de magazines, sites internet, etc.). La compréhension est progressive : observation générale du document, exercices de compréhension, activités d'expression et enfin entraînement grammatical.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1・ フランス生活暦：年中行事・祭り・イベント(Halloween, Beaujolais nouveau et Noël) 2・ 家族観 (mariage et naissances) 3・ 家族観 (結婚・離婚・le Pacs) 4・ 東京にある小さなフランス：カフェ・グルメ・イベント 5・ バカンスの過ごし方 6・ 身体と健康 7・ デジタル時代と新しいテクノロジー (電子辞書) 8・ ストライキ大国、フランス 9・ 食文化との出会い：朝市巡り 10・ La saint Valentin(日仏比較) 11・生活と環境：パリの Vélib 12・ノーベル賞を受賞フランス人 13・留学すると Erasmus 計画 14・フランスの CM 15・まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「シヴィ・ラング」 « Civilangue » 駿河台出版社 ISBN 4-411-01105-3</p> <p>参考文献 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語を2年間学んだ学生を対象としたクラスです。授業の進め方は、日常生活における様々な場面（買い物、道案内、レストランでの注文、地下鉄の利用方法など）を取り上げ、フランスを訪れた時に役立つ知識と自然な言い回しを学びます。また、フランスやフランス人の生活を授業の中で紹介することにより、フランスへの理解をより一層深めたいと思います。年間を通し、皆さんと一緒に楽しいフランス語のクラスにしていきたいと思います。</p> <p>必要に応じ日本語で説明します。</p> <p>注意：毎回、授業の10分間を利用し、DVD でフランスの文化、文明、歴史、教育、社会、美食文化、芸術分野等を紹介し、簡単な説明をします。</p> <p>Parlons français et préparons votre prochain séjour en France ensemble. Bon courage !</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 1 2. あいさつ 3. パリに着きました！ 4. 出会い - 友達になろう！ 5. フランス人は誰ですか？ 6. 国と国籍 7. フランス人の生活 8. フランスの家族 - 社会 9. フランスの住まい - 町 10. フランスの地方 11. 時間 - 天気他 12. フランス料理 - 美食文化 13. フランスのワイン他 14. テーブルのエチケット 15. 前期まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Nouveau Expression H. Takahashi 他 (MP3-Podcast) 第三書房 1年を通して使用</p>		<p>授業中に数回、小レポートを実施し(40%)、授業に対する参加態度を考慮し(60%)、総合的に評価する。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語を2年間学んだ学生を対象としたクラスです。授業の進め方は、日常生活における様々な場面（買い物、道案内、レストランでの注文、地下鉄の利用方法など）を取り上げ、フランスを訪れた時に役立つ知識と自然な言い回しを学びます。また、フランスやフランス人の生活を授業の中で紹介することにより、フランスへの理解をより一層深めたいと思います。年間を通し、皆さんと一緒に楽しいフランス語のクラスにしていきたいと思います。</p> <p>必要に応じ日本語で説明します。</p> <p>注意：毎回、授業の10分間を利用し、DVD でフランスの文化、文明、歴史、教育、社会、美食文化、芸術分野等を紹介し、簡単な説明をします。</p> <p>Parlons français et préparons votre prochain séjour en France ensemble. Bon courage !</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2 2. 方向 - パリの散歩 3. パリの有名な場所 - 美術館他 4. カフェとレストラン - メニュー他 5. フランスの食料品 6. フランスとヨーロッパ - TGV 他 7. パリの地下鉄 - バス 他 8. 地下鉄の乗り方他 - 料金 9. 買い物 - パリの有名なデパート 10. 洋服 - 支払いの仕方 他 11. フランスの教育 12. フランス映画：Amélie (アメリ) 13. Amélie の Q & A 1 * フランス語と日本語の QUIZZ 14. Amélie の Q & A 2 * フランス語と日本語の QUIZZ 15. 後期まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Nouveau Expression H. Takahashi 他 (MP3-Podcast) 第三書房 1年を通して使用</p>		<p>授業中に数回、小レポートを実施し(40%)、授業に対する参加態度を考慮し(60%)、総合的に評価する。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif</p> <p>L'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p> <p>Contenu</p> <ul style="list-style-type: none"> - Échanger des nouvelles en français - Découverte de la France 		<p>Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes ce qui nous donnera l'occasion de dire en français ce qui a été important pour nous.</p> <p>Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif</p> <p>L'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p> <p>Contenu</p> <ul style="list-style-type: none"> - Échanger des nouvelles en français - Découverte de la France 		<p>Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes ce qui nous donnera l'occasion de dire en français ce qui a été important pour nous.</p> <p>Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	M. デルヴロワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>3年生向けのフランス語会話の授業です。聴き取りと口述表現を練習します。まず、文法を確認する為の会話の聴き取り、簡単なダイアログやその背景にある日常的な状況を理解しましょう。春学期は自己紹介・ロールプレイ・社会問題をテーマにした会話の練習をします。秋学期は日常生活の様々なシーンを設定し、各役を演じてみましょう。対話の練習を通してその役にふさわしい話し方を身につけます。また、普段の生活の中で起こりえる状況や社会問題などについて自分の意見を発表します。その為の論拠の組み立て方とメソッドを学びましょう。目指すレベルは DELF B1 くらいです。</p> <p>Dans ce cours de conversation niveau troisième année, nous avons pour objectif de travailler sur la compréhension et l'expression orale. Partant de rappels en grammaire et de l'usage d'un lexique propre à un thème spécifique, travaillons la compréhension d'un dialogue simple. Puis, discutons sur un problème de la vie quotidienne pour se préparer à exprimer une opinion justifiée.</p>		<p>Le cours est composé de deux parties. Dans une première partie du cours, nous écoutons des dialogues simples autour d'une question de grammaire. L'étudiant répond à des questions logiques sur ce qu'il voit et entend.</p> <p>Dans une seconde partie, nous nous entraînons à l'expression orale sur les grands points suivants :</p> <ul style="list-style-type: none"> -la présentation de soi. -le jeu de rôle en situation. -la description et l'interprétation orale. -la discussion sur un problème de société... <p>Nos sources proviennent de manuels d'oral, de documents d'actualité audio ou vidéo, de films ou d'articles courts.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies distribuées par le professeur		Evaluation par la participation en cours et la préparation de petits exposés oraux	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	M. デルヴロワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>3年生向けのフランス語会話の授業です。聴き取りと口述表現を練習します。まず、文法を確認する為の会話の聴き取り、簡単なダイアログやその背景にある日常的な状況を理解しましょう。春学期は自己紹介・ロールプレイ・社会問題をテーマにした会話の練習をします。秋学期は日常生活の様々なシーンを設定し、各役を演じてみましょう。対話の練習を通してその役にふさわしい話し方を身につけます。また、普段の生活の中で起こりえる状況や社会問題などについて自分の意見を発表します。その為の論拠の組み立て方とメソッドを学びましょう。目指すレベルは DELF B1 くらいです。</p> <p>Dans ce cours de conversation niveau troisième année, nous avons pour objectif de travailler sur la compréhension et l'expression orale. Pour le second semestre, nous faisons toujours attention à la grammaire comme au vocabulaire suivant le thème. Mais, nous nous intéressons aussi à la manière de réaliser un exposé oral. Les étudiants devront présenter leur exposé oral.</p>		<p>Nous organisons, comme au premier semestre, le cours en deux parties. Mais, dans une première partie, nous travaillons globalement sur la compréhension de dialogues simples ou sur la reconnaissance d'une situation de la vie courante.</p> <p>Dans une seconde partie, les thèmes de l'expression orale sont davantage centrés sur :</p> <ul style="list-style-type: none"> -la mise en situation de conflit -le choix d'une attitude appropriée à la situation -la méthode de construction d'arguments -l'expression d'un avis sur un problème de société... <p>Nos sources proviennent de manuels d'oral, de documents d'actualité audio ou vidéo, de films ou d'articles courts.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies distribuées par le professeur		Evaluation par la participation en cours et la préparation de petits exposés oraux	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	J. ファヴロー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif du cours :</p> <p>Dans ce cours, vous apprendrez à vous exprimer en français sur des thèmes de la vie de tous les jours tout en approfondissant vos connaissances lexicales et grammaticales.</p> <p>Déroulement du cours :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Exposé par 1 ou 2 élèves en fonction du thème du jour - Travail sur un point grammatical précis en fonction des besoins des élèves - Etude d'un document en relation avec le thème du jour - Discussion sur le thème - Remise par le professeur d'une feuille de vocabulaire et d'un document à préparer pour le cours suivant - Remise du texte de l'exposé de la semaine suivante par l'élève concerné 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Présentation du cours, partage des exposés 2 L'université et les études 3 Le monde du travail et les petits boulots 4 L'alimentation et la santé 5 La politesse et les traditions 6 Le mariage et les relations hommes / femmes 7 La religion et la spiritualité 8 La musique, jouée et écoutée 9 La télévision, le théâtre et le cinéma 10 Le sport, regardé et pratiqué 11 La lecture, la littérature, les écrivains 12 Internet et les portables 13 La famille, les amis et les fêtes 14 Les vacances et les loisirs 15 Thème choisi par les élèves 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel, mais des feuilles de vocabulaire, ainsi que des documents à préparer. Dictionnaire requis.		Participation, assiduité, exposé individuel	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	J. ファヴロー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif du cours :</p> <p>Pour le semestre d'automne, chaque leçon s'organisera non plus autour d'un thème général, mais autour d'une question précise, reprenant les thèmes du semestre précédent, et qui donnera lieu à un débat.</p> <p>Déroulement du cours :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Exposé par 1 ou 2 élèves sous la forme d'une prise de position au sujet de la question du jour - Travail sur un point grammatical précis en fonction des besoins des élèves - Etude d'un document en relation avec le débat du jour - Débat entre les élèves - Remise d'une feuille de vocabulaire et d'un document à préparer pour le cours suivant - Remise du texte de l'exposé de la semaine suivante par l'élève concerné 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Présentation du cours, partage des exposés 2 Le système éducatif actuel est-il satisfaisant ? 3 Les Japonais travaillent-ils trop ? 4 Que devrait-on faire pour vivre plus longtemps ? 5 Toutes les traditions doivent-elles être protégées ? 6 Le mariage est-il une chose nécessaire ? 7 Les Japonais sont-ils un peuple religieux ? 8 La musique devrait-elle être gratuite ? 9 Doit-on interdire aux enfants de regarder la télé ? 10 Doit-on rendre le sport obligatoire pour tous ? 11 Les livres papier ont-ils encore un avenir ? 12 Les nouvelles technologies sont-elles un danger ? 13 Devrait-on interdire l'alcool et le tabac ? 14 Que choisir : les vacances au Japon où à l'étranger ? 15 Débat choisi par les élèves 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel, mais des feuilles de vocabulaire, ainsi que des documents à préparer. Dictionnaire requis.		Participation, assiduité, exposé individuel	

08年度以降 07年度以前	ビジネスフランス語 I 商業フランス語 a	担当者	C. パジエス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。(変更あり)</p> <p>Thèmes étudiés :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / Programme 2. La formation 3. Les diplômes 4. Exploitation / Evaluation 5. Rechercher un emploi 6. Candidature 7. CV 8. Exploitation / Evaluation 9. Les pratiques de recrutement 10. Lettre de motivation 11. Entretien d'embauche 12. Exploitation / Evaluation 13. Les contrats de travail 14. Professions et métiers 15. Exploitation / Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	ビジネスフランス語 II 商業フランス語 b	担当者	C. パジエス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>の内容を秋学期で扱います。(変更あり)</p> <p>Thèmes étudiés :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / Programme 2. Organiser un déplacement 3. Réserver une chambre d'hôtel 4. Réserver un billet d'avion / de train 5. Exploitation / Evaluation 6. Organiser son emploi du temps 7. Prendre contact par téléphone 8. Courrier et courriel 9. Exploitation / Evaluation 10. Passer commande 11. Importer et exporter 12. Exploitation / Evaluation 13. Découvrez l'entreprise 14. Fonctions dans l'entreprise 15. Exploitation / Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	上級フランス語 I 時事フランス語 a	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。 2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。 3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。 <p>毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組を見て、その大筋をつかむ練習と、細かいきき取りを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答えを見つけます。最後に、やはり同じテーマの記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。</p> <p>この授業はTCF320点以上の学生を対象としています。初回の授業で受講の可否を決めますので、TCFスコア証明書を持参の上、必ず出席してください。</p>		<p>基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。2013年のニュースを予測することはできませんので、以下に2012年度春学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。</p> <p>4月：マリでクーデター 5月：フランス大統領選挙, 5月1日はスズランの日, 通貨ユーロの危機, エッフェル塔のエレベーターが故障, モナコグランプリレース 6月：カンヌ映画祭, モンサンミッシェルの大規模工事, サッカー・ユーロ2012, リオで環境サミット 7月：トヨタがフランス工場に生産移転, TGV 東線5周年, ツールドフランス</p> <p>練習問題を体験したい方は、以下のサイトにアクセスしてください。2012年度の上級フランス語で使ったものとはほぼ同じ練習問題が掲載されています。 http://inoue34.exblog.jp/</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はありません。毎回の授業に辞書を持参して下さい。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。AA, A, B, C, F の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

08年度以降 07年度以前	上級フランス語 II 時事フランス語 b	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。 2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。 3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。 <p>毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組を見て、その大筋をつかむ練習と、細かいきき取りを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答えを見つけます。最後に、やはり同じテーマの記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。</p> <p>この授業はTCF320点以上の学生を対象としています。初回の授業で受講の可否を決めますので、TCFスコア証明書を持参の上、必ず出席してください。</p>		<p>基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。2013年のニュースを予測することはできませんので、以下に2012年度秋学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。</p> <p>9月：風刺画へのイスラム教徒の抗議, 核廃棄物最終処分場 10月：ベルギーのフランドル地方が経済好調, EUがノーベル平和賞受賞, フランス語圏サミット開催, シャトーの名称をアメリカ産ワインに, 11月:11月1日の菊, トリュフが匂をむかえる, シェールガスの水圧破砕法が禁止に, フランス国債格下げ, 心のレストラン 12月：ルーブルのランス分館, マルシェドノエル, ドライブスルーで買い物 1月：フランス軍によるマリ空爆</p> <p>練習問題を体験したい方は、以下のサイトにアクセスしてください。2012年度の上級フランス語で使ったものとはほぼ同じ練習問題が掲載されています。 http://inoue34.exblog.jp/</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はありません。毎回の授業に辞書を持参して下さい。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。AA, A, B, C, F の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論 I フランス語学概論 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去2年間の講義内容とは異なるものとなる。</p> <p>受講者に求めること：受講者のフランス語力は問わないが、内容上、最低でも1年次の文法の授業内容を理解できていなければ、この授業についていくことは難しい。不安なところがある人は、予め予習しておくか、授業時間外に質問に来ること。また、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持って欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、卒業再試験は行わないので注意すること。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明、フランス語学とはなにか</p> <p>第2回以降1年かけて以下のテーマを論じる予定：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較構文とは何か、最上級と接続法 ・所有形容詞とは何か、定冠詞とはどう違うのか ・過去分詞の一致はなぜ起こるのか ・代名動詞の助動詞はなぜ être なのか ・助動詞の選択はどのように行われるのか ・接続法とは何か ・être はなぜ不規則な活用をするのか ・単純未来形とはなにか ・非人称構文は何のためにあるのか ・il/elle と「彼」「彼女」は同じか ・男性を紹介するのになぜ il est Paul と言えないのか ・形容詞の第2形は何か ・強調構文とは何か ・que の機能 ・voici / voilà とは何か ・aller はなぜ不規則な活用をするのか ・フランス語の方言 など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。卒業再試験は行わない。	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論 II フランス語学概論 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降	フランス語文章理論 I	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>フランス語を書いたり、話しりしていると、今までの文法だけでは不足していると思うことがよくあります。この授業では「フランス語を発信する」ことを念頭に置き、初級文法で取り上げられていない文法項目をとりあげます。「読む」場合は、極端に言えば、主語と動詞と目的語が分かればある程度意味は取れますが、「書く」「話す」など、自分でフランス語の文を作り出す場合はもっと細かい文法知識が必要になります。</p> <p>授業の概要</p> <p>1・2年次で学習した文法をふまえて、フランス語を話す・書くときに間違いやすい事項をさらに言語学的な見地から学習する。特に、簡単な文でもほぼ必ず出てくるが初級文法ではまとまって取り上げられない前置詞と、日本人にとって困難な冠詞をとりあげる。</p>		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 動詞の性質と時を表す前置詞の関係 1</p> <p>第3回： 動詞の性質と時を表す前置詞の関係 2</p> <p>第4回： 場所を表す前置詞 1</p> <p>第5回： 場所を表す前置詞 2</p> <p>第6回： 場所を表す前置詞 3</p> <p>第7回： 場所を表す前置詞 4</p> <p>第8回： 手段を表す前置詞 1</p> <p>第9回： 手段を表す前置詞 2</p> <p>第10回： 手段を表す前置詞 3</p> <p>第11回： être de 名詞 1</p> <p>第12回： être de 名詞 2</p> <p>第13回： 動詞+前置詞 1</p> <p>第14回： 動詞+前置詞 2</p> <p>第15回： 動詞+前置詞 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08年度以降	フランス語文章理論 II	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 冠詞に関する練習 1</p> <p>第3回： 冠詞に関する練習 2</p> <p>第4回： 冠詞に関する練習 3</p> <p>第5回： être + 冠詞</p> <p>第6回： 一般的なことを表す冠詞 1</p> <p>第7回： 一般的なことを表す冠詞 2</p> <p>第8回： 部分冠詞 1</p> <p>第9回： 部分冠詞 2</p> <p>第10回： 部分冠詞 3</p> <p>第11回： 身体の一部を表す名詞と限定詞 1</p> <p>第12回： 身体の一部を表す名詞と限定詞 2</p> <p>第13回： 冠詞練習問題 1</p> <p>第14回： 冠詞練習問題 2</p> <p>第15回： 冠詞練習問題 3</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08年度以降	フランス言語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業ではフランス語教育を中心に言語教育について扱う。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な言語学習法について考えることを目的とする。</p> <p><講義概要> 今年度は「記憶すること」をメインに、学習ストラテジーについて考えていく。 フランス語に限らず、ひとつの言語を習得していく過程で覚えることは限りがない。それを苦痛に思う学習者も少なくないだろうが、楽しいと感じることは不可能なのだろうか。だいたい、なぜ学習を「楽しむ」必要があるのだろうか。そして、楽しみながら覚える方法はあるのだろうか。そのようなことを考えてみたい。ただし、「楽しむ」は「楽をする」ということでは決してないので誤解のないように！ 授業は、講義と個人やグループでの作業を進めるので、履修者は「遅刻しない」こと！</p>		<p>1. Introduction</p> <p>2. 言語学習（学ぶ立場）と言語教育（教える立場）1</p> <p>3. 言語学習（学ぶ立場）と言語教育（教える立場）2</p> <p>4. 言語学習（学ぶ立場）と言語教育（教える立場）3</p> <p>5. 言語学習（学ぶ立場）と言語教育（教える立場）4</p> <p>6. 言語教育における「記憶（暗記）」1</p> <p>7. 言語教育における「記憶（暗記）」2</p> <p>8. 言語教育における「記憶（暗記）」3</p> <p>9. 言語教育における「記憶（暗記）」4</p> <p>10. 学習ストラテジー 1</p> <p>11. 学習ストラテジー 2</p> <p>12. 学習ストラテジー 3</p> <p>13. 「記憶」のために（練習）1</p> <p>14. 「記憶」のために（練習）2</p> <p>15. まとめ</p> <p>（内容と扱う項目は授業の進行状況により変更する。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		課題や授業参加態度などの平常点、個別作業、グループ作業と発表、定期試験。	

08年度以降	フランス言語教育論 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業ではフランス語教育を中心に言語教育について扱う。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な言語学習法について考えることを目的とする。</p> <p><講義概要> 今年度は「記憶すること」をメインに、学習ストラテジーについて考えていく。 フランス語に限らず、ひとつの言語を習得していく過程で覚えることは限りがない。それを苦痛に思う学習者も少なくないだろうが、楽しいと感じることは不可能なのだろうか。だいたい、なぜ学習を「楽しむ」必要があるのだろうか。そして、楽しみながら覚える方法はあるのだろうか。そのようなことを考えてみたい。ただし、「楽しむ」は「楽をする」ということでは決してないので誤解のないように！ 授業は、講義と個人やグループでの作業を進めるので、履修者は「遅刻しない」こと！</p>		<p>1. Introduction</p> <p>2. 「記憶」につなげる exercices 1</p> <p>3. 「記憶」につなげる exercices 2</p> <p>4. 「記憶」につなげる exercices 3</p> <p>5. 「記憶」につなげる exercices 4</p> <p>6. 「記憶」につなげる exercices 5</p> <p>7. 「記憶」につなげる exercices 6</p> <p>8. 続・学習ストラテジー 1</p> <p>9. 続・学習ストラテジー 2</p> <p>10. 続・学習ストラテジー 3</p> <p>11. 続・学習ストラテジー 4</p> <p>12. 続・「記憶」のために（練習）1</p> <p>13. 続・「記憶」のために（練習）2</p> <p>14. 続・「記憶」のために（練習）3</p> <p>15. まとめ</p> <p>（内容と扱う項目は授業の進行状況により変更する。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		課題や授業参加態度などの平常点、個別作業、グループ作業と発表、定期試験。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション各論 I フランス語学論 a	担当者	古川 直世
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。		1-2 全般的なオリエンテーション。 3-5 冠詞の体系（1）：定冠詞の機能。 6-8 冠詞の体系（2）：不定冠詞の機能。 9-13 冠詞の体系（3）：部分冠詞の機能。 14 冠詞の体系（4）：無冠詞の機能。 15 まとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション各論 II フランス語学論 b	担当者	古川 直世
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。		1-4 動詞の体系（1）：法、時制、アスペクト。 5-7 動詞の体系（2）：半過去。 8-10 動詞の体系（3）：代名動詞。 11-14 関係節の諸相：制限的關係節、同格的關係節、述語的關係節。 15 まとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション購読 I フランス語学講読 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>But du cours</u> :</p> <p>Pouvoir lire et comprendre des textes d'actualité de nature politique, sociologique ou économique.</p> <p><u>Contenu</u> : Au début, lecture d'articles destinés aux jeunes, collégiens et lycéens sur des sujets d'actualité ayant rapport aux <u>sociétés francophones</u> et plus particulièrement à la <u>France d'outre mer</u>. Plus tard, les articles seront tirés des journaux habituels.</p> <p><u>Méthode</u> :</p> <p>Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte.</p> <p style="text-align: center;"><u>Pas de traduction.</u></p>		<p>1 Présentation du cours</p> <p>2-14. Lecture selon la méthode exposée ci-contre d'articles d'actualité récente pris dans les journaux et revues pour jeunes.</p> <p>(7. Petit test de vocabulaire)</p> <p>15. conclusions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2013.		Petit test de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix.	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション購読 II フランス語学講読 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir le premier semestre. Dans toute la mesure du possible, nous abordons au 2e semestre des articles des journaux francophones habituels.</p> <p><u>Remarque générale</u> pour les deux semestres : À partir de la 3^e année, il est important et urgent d'augmenter son <u>vocabulaire</u> actif et passif pour comprendre la société actuelle, se former une opinion et pouvoir l'exprimer. J'essaierai d'organiser plusieurs contrôles du vocabulaire rencontré.</p>		<p>1 Bilan du premier semestre.</p> <p>2-14. Lecture selon la méthode présentée au premier semestre d'articles d'actualité récente.</p> <p>(7. Petit test de vocabulaire)</p> <p>15 Conclusions générales</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2013.		Devoir et examen final : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix.	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>フランス語の上級テキストを読むために必要な文法を学習します。単語さえ分かればある程度のテキストは読みこなせる文法力をつけます。最終的には documents authentiques (フランス語の授業のために作られた教材ではなく、フランス人が日常的に使っている様々な資料) を読みこなせるようになればいいと思います。TCF、仏検の準備にもなります。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：Va-t-elle tout refuser ?</p> <p>第3回：D'accord ou pas d'accord</p> <p>第4回：La tour Eiffel</p> <p>第5回：Cafés, bistros et brasseries</p> <p>第6回：Yves Saint Laurent</p> <p>第7回：Sur le Pont d'Avignon</p> <p>第8回：Les vitrines de Noël</p> <p>第9回：Faut-il emmener les enfants au musée?</p> <p>第10回：La butte Montmartre</p> <p>第11回：L'aventure de livre de poche</p> <p>第12回：Manger bio?</p> <p>第13回：Les langues parlées en France</p> <p>第14回：Le sel au quotidien</p> <p>第15回：Etre sportif de haut niveau</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的には春学期と同じですが、最終的には le Monde の記事を読めるようになることを目指します。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：Les jeunes et le tabac</p> <p>第3回：Chauffeur de bus à Paris</p> <p>第4回：Cordon-bleu à Lyon</p> <p>第5回：Horticulteur à Nice</p> <p>第6回：Mariniers sur les canaux de France</p> <p>第7回：Le baccalauréat a fêté ses 200 ans.</p> <p>第8回：La bande dessinée</p> <p>第9回：Les nouveaux pères</p> <p>第10回：le Monde の記事</p> <p>第11回：le Monde の記事</p> <p>第12回：le Monde の記事</p> <p>第13回：le Monde の記事</p> <p>第14回：le Monde の記事</p> <p>第15回：le Monde の記事</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語力を養成する。</p> <p>講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を丁寧に読んでいく（1つの作品を1年間かけて読んでいくというような形ではない）。春学期は仏検2級程度、秋学期は仏検準1級程度の文章を扱う。</p> <p>その他：全員予習は必須。毎回ランダムに全員を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は全て応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。4回以上欠席した場合には、定期試験が満点でも評価対象としない（遅刻2回で1回欠席）。また、単語テストを毎回冒頭に実施し、その点数を評価に加点する。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回以降：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。</p> <p>なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。また、扱う文章はラシーヌ・スタンダールといった文学作品から新聞・雑誌の記事、ブログ、料理のレシピ等、さまざまな分野・文体のものである。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席、発表内容、授業への積極的参加姿勢、定期試験、単語テストにより評価する。卒業再試験は行わない。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業では「外国語としてのフランス語教育」に関する内容を扱い、フランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識の習得を目的とする。</p> <p><講義概要> 今年度は「日本におけるフランス語教育」、「外国語としてのフランス語教育」、「外国語教育」など、例年よりも幅広い内容を取り上げながら、フランス語教育について概観する。 授業では、フランス語や日本語で書かれた文献を参考資料として授業を進める。また、随時、個人作業やグループ作業などを取り入れる。</p> <p>履修する学生は一回目の授業から参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 日本におけるフランス語教育 1 3. 日本におけるフランス語教育 2 4. 日本におけるフランス語教育 3 5. 日本におけるフランス語教育 4 6. 日本におけるフランス語教育 5 7. 日本におけるフランス語教育 6 8. 日本におけるフランス語教育 7 9. 日本におけるフランス語教育 8 10. 外国語教育、言語教育 1 11. 外国語教育、言語教育 2 12. 外国語教育、言語教育 3 13. 外国語教育、言語教育 4 14. 外国語教育、言語教育 5 15. まとめ <p>(順番と内容は授業の進行状況により変更する。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		授業参加態度、課題（予習等を含む）、グループワークと発表、定期試験（持ち込み不可）。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業では「外国語としてのフランス語教育」に関する内容を扱い、フランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識の習得を目的とする。</p> <p><講義概要> 今年度は「日本におけるフランス語教育」、「外国語としてのフランス語教育」、「外国語教育」など、例年よりも幅広い内容を取り上げながら、フランス語教育について概観する。 授業では、フランス語や日本語で書かれた文献を参考資料として授業を進める。また、随時、個人作業やグループ作業などを取り入れる。</p> <p>履修する学生は一回目の授業から参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 外国語としてのフランス語教育 1 3. 外国語としてのフランス語教育 2 4. 外国語としてのフランス語教育 3 5. 外国語としてのフランス語教育 4 6. 外国語としてのフランス語教育 5 7. 外国語としてのフランス語教育 6 8. 外国語としてのフランス語教育 7 9. 外国語としてのフランス語教育 8 10. 外国語：学習と教育 1 11. 外国語：学習と教育 2 12. 外国語：学習と教育 3 13. 外国語：学習と教育 4 14. 外国語：学習と教育 5 15. まとめ <p>(順番と内容は授業の進行状況により変更する。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		授業参加態度、課題（予習等を含む）、個別作業／グループワークと発表、定期試験（持ち込み不可）。	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術 I フランスの美術 a	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 17世紀から19世紀までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテキストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。</p> <p>講義概要： 毎回一人の画家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. プッサン 3. ラトゥール 4. ブーシェ 5. ダヴィッド 6. アングル 7. ドラクロー 8. クールベ 9. ドーミエ 10. ミレー 11. マネ 12. 印象派-1 13. 印象派-2 14. 印象派-3 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>		<p>コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート（美術館に行き書いてもらいます。）</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術 II フランスの美術 b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 印象派以降、20世紀初頭までのフランス美術の展開を概観します。 代表的な作家と作品について知るとともに、印象派以降のさまざまな美術の動向と、それらが提起する問題について理解を深めることを目的とします。</p> <p>講義概要： 毎回一人の作家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 印象派-1 3. 印象派-2 4. セザンヌ 5. スーラ 6. ルドン 7. ゴーギャン 8. ゴッホ 9. トゥールーズ=ロートレック 10. ナビ派 11. ジャポニスム 12. アンリ・ルソー 13. マティス 14. エコール・ド・パリ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>		<p>コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート（美術館に行き書いてもらいます。）</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの音楽 I フランスの音楽 a	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度は19世紀のフランス音楽を中心にジャンル別に採り上げます。時代の美意識が音楽にどのように反映されているかを、フランスの周辺国の音楽とも比較しながら見ていき、“フランス的”とはどういうものかを感じ取れるようにしていきます。</p> <p>春学期は右記の3つのジャンルによって、できるだけ音楽を聴き、映像などを見ながら進めていきます。またとくに宗教音楽では実際に歌うことで音感覚を体験しようと考えていますので、履修者は積極的に歌うことが望まれます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 宗教音楽 (1) 3. 宗教音楽 (2) 4. 宗教音楽 (3) 5. 宗教音楽 (4) 6. 歌曲 (1) 7. 歌曲 (2) 8. 歌曲 (3) 9. 歌曲 (4) 10. 歌曲 (5) 11. 室内楽 (1) 12. 室内楽 (2) 13. 室内楽 (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントを配布。 参考文献：授業時に紹介。</p>		試験 (80%) と出席 (20%)	

08年度以降 07年度以前	フランスの音楽 II フランスの音楽 b	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、19世紀のフランス音楽を中心にジャンル別に採り上げます。時代の美意識が音楽にどのように反映されているかを、フランスの周辺国の音楽とも比較しながら見ていき、“フランス的”とはどういうものかを感じ取れるようにしていきます。</p> <p>できるだけ音楽を聴き、映像などを見ながら、また楽譜も例に取りながら進めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 管弦楽曲 (1) 3. 管弦楽曲 (2) 4. 管弦楽曲 (3) 5. 管弦楽曲 (4) 6. ピアノ曲 (1) 7. ピアノ曲 (2) 8. ピアノ曲 (3) 9. ピアノ曲 (4) 10. ピアノ曲 (5) 11. 劇場音楽 (1) 12. 劇場音楽 (2) 13. 劇場音楽 (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントを配布。 参考文献：授業時に紹介。</p>		試験 (80%) と出席 (20%)	

08年度以降 07年度以前	フランスの舞台芸術 I フランスの演劇 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度は「オッフェンバックと音楽における笑い」というテーマで授業を行います。</p> <p>オッフェンバックはドイツ生まれのユダヤ人ですが、後にフランスに帰化し、19世紀の第二帝政期を代表するオペラ・ブッフア（喜劇オペラ）、オペレッタの作曲家となりました。オッフェンバックの名前は知らなくとも、彼の曲は皆さんどこかで耳にしたことがあるはずです。</p> <p>授業では、彼の創作した抱腹絶倒のオペラ・ブッフアを鑑賞しつつ、音楽における笑いはいかにして可能になるのかという問題を追究します。笑いの技法としては、パロディ、風俗描写、社会諷刺等を分析する予定です。</p> <p>受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。</p> <p>ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。</p> <p>なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期授業概要の説明 2. オッフェンバックの生い立ち 3. 第二帝政という時代 4. 第二帝政とパリのオッフェンバック 5. 『地獄のオルフェ』(1) 6. 『地獄のオルフェ』(2) 7. 『地獄のオルフェ』(3) 8. 『美しきエレーヌ』(1) 9. 『美しきエレーヌ』(2) 10. 『美しきエレーヌ』(3) 11. 『パリの生活』(1) 12. 『パリの生活』(2) 13. 『パリの生活』(3) 14. オッフェンバックにおける笑いの技法 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし。参考文献は授業時に紹介。		学期末定期試験で評価。ただし6回以上欠席した場合には自動的にF評価とする。	

08年度以降 07年度以前	フランスの舞台芸術 II フランス演劇 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、春学期の内容を踏まえて授業を行います。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。</p> <p>秋学期の授業では、「笑いは感動の涙よりも低次元の反応なのか」という問題意識のもとに、春学期に扱った作品の傾向を受け継ぐ『ジェロルスタン女大公殿下』の分析から始め、架空の南米国家で物語が展開される傑作『ペリコール』を経て、ついに笑いを捨ててたどり着いたオッフェンバック最晩年の境地を具現化した幻想的、叙情的な作品『ホフマン物語』までを扱います。</p> <p>受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。</p> <p>ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。</p> <p>なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期授業概要の説明 2. 『ジェロルスタン女大公殿下』(1) 3. 『ジェロルスタン女大公殿下』(2) 4. 『ジェロルスタン女大公殿下』(3) 5. 『盗賊』(1) 6. 『盗賊』(2) 7. 『盗賊』(3) 8. 『ペリコール』(1) 9. 『ペリコール』(2) 10. 『ペリコール』(3) 11. 第二帝政の崩壊とオッフェンバック 12. 『ホフマン物語』(1) 13. 『ホフマン物語』(2) 14. 『ホフマン物語』(3) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし。参考文献は授業時に紹介。		学期末定期試験で評価。ただし6回以上欠席した場合には自動的にF評価とする。	

08年度以降 07年度以前	フランス文学史 I フランス文学史 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「フランスの文学と歴史」(その1)</p> <p>フランスの中世から現代まで、作家たちがどのような文学作品を創造してきたのか、そして読者たちがどのような作品を受容してきたのかを概観することによって、文化形成の歴史の一端を探求します。「文学」ということばそのものも、フランスと日本とでは、もつ意味の広さが異なります。日本の文化・歴史をつねに念頭におきつつ、人間の文化創造の営みを相対的に理解することを目指します。</p> <p>フランス文学の歴史を、各時代の政治・宗教、あるいは絵画・彫刻・建築・音楽等の芸術思潮と関連づけながら、代表的な文学作品を紹介します。学生諸君は、自らの選択で各世紀の作家・作品を選び、読みかき論じることで、フランス文学に親しみ、作品に照らして自らの思索の方途を見だし、書くことによって論理的思考を涵養してください。</p> <p>出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。</p> <p>自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介 2 「文学」ということばのもつ広がり (フランスと日本) 3 「文学史」とは? 文化と歴史 (フランスと日本) 4 フランス中世と文学 (その1) 5 フランス中世と文学 (その2) 6 フランス中世と文学 (その3) 7 フランス16世紀・ルネッサンス (その1) 8 フランス16世紀・ルネッサンス (その2) 9 フランス16世紀・ルネッサンス (その3) 10 レポート解説・紹介および試験 11 フランス17世紀・古典主義 (その1) 12 フランス17世紀・古典主義 (その2) 13 フランス17世紀・古典主義 (その3) 14 レポート解説・紹介および試験 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995) 教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度(出席と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。	

08年度以降 07年度以前	フランス文学史 II フランス文学史 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「フランスの文学と歴史」(その2)</p> <p>前期にひき続き、授業計画に示したように、フランス文学史を時代順に概観すると並行して、詩・演劇・小説・思想などのジャンルについても、その変遷がわかるように、随時、説明を加えます。</p> <p>授業では、可能な限り、参考書をもとに学生が選んだテーマに即して、個別具体的な作品を論じながら、時代背景と作品生成との関連を解説します。</p> <p>演劇については録画を、詩と小説については朗読の録音を紹介し、文化史的背景についてはスライド上映などで、説明を補う予定です。</p> <p>できるだけ多くの文学作品を知り、そのなかから学生諸君が自らの関心に即した各世紀の作品を選び、親しむことを目標にします。</p> <p>講義は参考書を用いながら、随時テキストを抜粋したプリントで行います。</p> <p>出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。</p> <p>自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期のまとめと後期の展望 2 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その1) 3 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その2) 4 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その3) 5 レポート解説・紹介および試験 6 フランス19世紀・ロマン主義 (その1) 7 フランス19世紀・ロマン主義 (その2) 8 フランス19世紀・象徴主義 (その1) 9 フランス19世紀・象徴主義 (その2) 10 レポート解説・紹介および試験 11 フランス20世紀・両次大戦間の文学 12 フランス20世紀・実存主義 13 フランス20世紀・文芸思潮 14 レポート解説・紹介および試験 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995) 教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度(出席と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。	

08年度以降 07年度以前	フランスの文学 I フランス文学各論 a	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、古今東西を問わず世界中の文学に見いだされる、「私を語る試み」について、フランスの代表的な「日記」や「告白」、「回想録」をとりあげて学びます。</p> <p>フランスでは伝統的に、人間の普遍的心理や真実を探求することが文学者の使命と考えられてきました。そのため、「私」を主体に個人的な事柄を書き綴ることは、あくまで文筆業の副産物にすぎないとみなされていました。</p> <p>しかし、自らの生涯の光と影、あるいは静かに流れる日常の断片を、公にせずともひたむきに書き続けた作家は多くいます。彼らは我々と同じ、世界の中のちっぽけな「私」に悩み、もがき、告白する生身の人間にほかなりません。</p> <p>いずれのテキストも、明快で美しいフランス語で書かれ、中級文法を理解していれば翻訳なしでも十分に読めます。授業は、それぞれの作家・作品の説明と、抜粋の講読というかたちで進みます。朗読を聞き、音読をし、構文を読み解くことでフランス文学の魅力を味わいましょう。</p>		<p>第1回：「私」を語る文学者たち</p> <p>第2回：ルソー『告白』</p> <p>第3回：ツルニチニチソウの思い出</p> <p>第4回：シャトーブリアン『墓の彼方からの回想』</p> <p>第5回：蘇る記憶</p> <p>第6回：アミエル『日記』</p> <p>第7回：習慣の織物</p> <p>第8回：ゴンクール兄弟『日記』</p> <p>第9回：文学者の日常</p> <p>第10回：ルナン『幼年・青春時代の回想』</p> <p>第11回：思想家の追憶</p> <p>第12回：コレット『私の修業時代』</p> <p>第13回：バル・エポックの女</p> <p>第14回：バルト『彼自身によるロラン・バルト』</p> <p>第15回：作者から読者へ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントで配布、図版資料も使用する。</p> <p>大部分の作品には翻訳があるため、適宜参照すること。</p>		<p>学期中の宿題（訳読・朗読など）と期末レポート。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの文学 II フランス文学各論 b	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期にひき続き、自らを語ろうとした文学者たちの代表的なテキストの抜粋を読み解きます。ただし、「日記」や「回想録」など、語る私＝作家自身だと（一応は）保証されている作品とは異なり、主人公が必ずしも作者のありのままの姿とは言い切れない、フィクションの物語としても読める「自伝的小説」をとりあげます。</p> <p>幼少期のトラウマ、家族との思い出、思春期の幻滅やかなわぬ恋など、きっかけはどうあれ、「私」を語ることもっとも無縁とみなされていた作家でさえも、人生のいずれかの時期に、やむにやまれぬ衝動につき動かされて自らの魂をさらけ出すかのような作品を残しています。</p> <p>心の奥底に秘めた「私」の物語をはたして語るべきか、作家たちのためらいと試行錯誤、そして筆をとらずにはいられなかった創造への志向性を明らかにしながら、なぜ人は自らを他者に語り、そして他者の物語を読もうとするのか、「個」から「共同体」へ、「個」から「普遍」へとひらかれていくフランス文学の可能性を考えていきましょう。</p>		<p>第1回：自画像の歴史</p> <p>第2回：ミュッセ『世紀児の告白』</p> <p>第3回：放蕩詩人の恋</p> <p>第4回：スタンダール『アンリ・ブリュラールの生涯』</p> <p>第5回：醜男の情熱</p> <p>第6回：フロベール『ある狂人の手記』</p> <p>第7回：人妻への失恋</p> <p>第8回：ヴァレス『子供』</p> <p>第9回：幼年時代の痛み</p> <p>第10回：カミュ『最初の人間』</p> <p>第11回：アルジェの家族</p> <p>第12回：モディアノ『ドラ・ブリュデール』</p> <p>第13回：死者の痕跡を求めて</p> <p>第14回：ギベール『僕の命を救ってくれなかった友へ』</p> <p>第15回：エイズと創作</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントで配布、図版資料も使用する。</p> <p>大部分の作品には翻訳があるため、適宜参照すること。</p>		<p>学期中の宿題（訳読・朗読など）と期末レポート</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論 I フランス文学各論 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「パリのポエジー — 19世紀フランス文学における「パリ」の表象」(その1)</p> <p>19世紀に近代都市として生まれ変わりつつあるパリは、例えばバルザック『人間喜劇』やボードレール『パリの憂鬱』、そしてユゴー『レミゼラブル』にいたるまで、主題として、あるいは背景として、多くの文学作品に描かれ、また絵画の主題にもなっています。</p> <p>今回は、ユゴーの『ノートル＝ダム・ド・パリ』を中心にテキストを読みながら、19世紀の作家がどのように「中世」を想像していたのか、聖堂(カテドラル)がどのように建築され、大革命で破壊され、そして再建されたのか、等々を細部にわたってみてゆきましょう。</p> <p>「聖職者／騎士／下層民」の対立の図式、「聖母崇拜」、「ゴシック建築」、「グロテスク」、「歴史小説」などのテーマ群を解説します。</p> <p>『ノートル＝ダム・ド・パリ』は、なぜ映画化され、アニメにも描かれるのでしょうか。小説と映画ではなにがちがうのか、「移行」transpositionの問題も考えましょう。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <p>1: 19世紀フランスの文学と社会 2: 文学と美術に共通するいくつかの主題 3: 「パリ」の表象 (1) 4: 「パリ」の表象 (2) 5: 『ノートル＝ダム・ド・パリ』(1) 6: 『ノートル＝ダム・ド・パリ』(2) 7: 『ノートル＝ダム・ド・パリ』(3) 8: パリのポエジー (1) 9: パリのポエジー (2) 10: パリのポエジー(3) 11: 『ノートル＝ダム・ド・パリ』(4) 12: 『ノートル＝ダム・ド・パリ』(5) 13: 『ノートル＝ダム・ド・パリ』(6) 14: まとめと展望 (ユゴーの神話的主题について) 15: 講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは随時プリントで配布する。参考書は教室で随時指示する。		授業への参加度(出席と発表)、課題を前もって示す試験。(あるいはレポート)	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論 II フランス文学各論 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「パリのポエジー — 19世紀フランス文学における「パリ」の表象」(その2)</p> <p>19世紀に近代都市として生まれ変わりつつあるパリは、例えばバルザック『人間喜劇』やボードレール『パリの憂鬱』、そしてユゴー『レミゼラブル』にいたるまで、主題として、あるいは背景として、多くの文学作品に描かれ、また絵画の主題にもなっています。</p> <p>今回は、ユゴー『レミゼラブル』を中心に、テキストを読みながら、登場人物たちと共に、地図を頼りにパリを散策し、現実から想像界へと変化するパリの街並みを観察します。</p> <p>「革命と民衆」、「バリケード」、「パリの地下」、「貧困と犯罪」、「寛容と妄執」などのテーマ群を解説します。</p> <p>社会派小説である『レミゼラブル』が、なぜ映画やミュージカルになるのでしょうか。小説と映画ではなにがちがうのか、ジャンル「移行」transpositionの問題も考えましょう。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <p>1: 19世紀フランスの文学と社会(再論) 2: 文学と美術に共通するいくつかの主題 3: 「パリ」の表象 (1) 4: 「パリ」の表象 (2) 5: ユゴー『レミゼラブル』(1) 6: ユゴー『レミゼラブル』(2) 7: ユゴー『レミゼラブル』(3) 8: パリのポエジー (1) 9: パリのポエジー (2) 10: パリのポエジー(3) 11: ユゴー『レミゼラブル』(4) 12: ユゴー『レミゼラブル』(5) 13: ユゴー『レミゼラブル』(6) 14: まとめと展望 (ユゴーの神話的主题について) 15: 講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは随時プリントで配布する。参考書は教室で随時指示する。		授業への参加度(出席と発表)、課題を前もって示す試験(あるいはレポート)。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「フランス詩を暗唱しよう」</p> <p>言語の運用能力を高めるには、まずは文章を暗記することが基本です。ことばのリズム、発音、抑揚をまるごと暗記しましょう。暗唱するには、その努力に見合う美しいフランス語を選びましょう。フランス語の粋（すい）は詩にあります。</p> <p>フランス詩は、声に出して読むために、暗唱するためにできています。美しい詩はおぼえやすくできています。詩はことばの音楽です。暗唱することによって、フランス詩の韻律を体感しましょう。「詩的快楽は（発声する）筋肉の歓び」（André Spire）です。</p> <p>短くてやさしい抒情詩から、おぼえにくい長文の叙事詩へと、段階を追って進みます。フランス詩法や韻律を解説し、フランス詩をもとにフォーレやドビュッシーが作曲したフランス歌曲を紹介します。作曲家たち、あるいは歌手たちがどのように詩を解釈し、韻律を曲にしたて、そして歌っているかを分析します。（歌の才能に恵まれた人は自ら歌ってみてください、強制はしません。）</p> <p>半年間でできるだけ多くの詩を暗記しましょう。</p>		<p>（下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介 2 フランス詩について（暗唱 Verlaine 1） 3 フランス詩法について 1（暗唱 Verlaine 2） 4 フランス詩法について 2（暗唱 Apollinaire 1） 5 詩の解説と暗唱 Baudelaire 1 6 詩の解説と暗唱 Baudelaire 2 7 詩の解説と暗唱 Baudelaire 3 8 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc 9 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc 10 フランス詩と歌曲（Verlaine et Fauré 1） 11 フランス詩と歌曲（Verlaine et Fauré 2） 12 フランス詩と歌曲（Baudelaire et Debussy 1） 13 フランス詩と歌曲（Baudelaire et Debussy 2） 14 詩の暗記と暗唱について（まとめ） 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度（出席と発表）、試験（できるだけ多くの詩句を暗記する）、あるいは課題を前もって示す試験（詩句の解釈と翻訳）。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文化講読 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「フランス詩を読もう」</p> <p>フランス詩を暗唱することによって、韻律を体感し、詩的快楽を堪能してもらいます。</p> <p>詩を暗唱するのと並行して、対象を徐々に短い抒情詩から長い叙事詩へと移行し、詩の物語性（あるいは神話的構造）に着目し、「詩を読む」てほどこきをします。</p> <p>詩句における語の意味の広がり、語義の多層性、詩句の曖昧さと想像力、散文と韻文の違い、等々について、考えながら、Hugo, Nerval, Baudelaire, Apollinaire 等の代表的な詩を読み、そして聞きます。</p> <p>詩句はさまざまに翻訳することができます。作曲家が詩句を解釈して音楽をつけたように、フランス詩を日本語に翻訳する場合にも、幾通りもの翻訳が可能であり、訳す楽しみがあります。翻訳するためには、正確な解釈が必要です、しかし、その解釈は一つではなく、翻訳の一つの正解はありません。できるだけ正確に、しかも自分のことばによる翻訳を楽しみましょう。（歌うためにも詩句の正確な解釈が必要です。）</p> <p>フランス詩を楽しむ機会はなかなかないでしょうから、授業への積極的な参加（出席と発表）を期待します。</p>		<p>（下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フランス文学における抒情詩と叙事詩 2 詩を読む Victor Hugo 1 3 詩を読む Victor Hugo 2 4 詩を読む Victor Hugo 3 5 詩を読む Victor Hugo 4 6 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 1 7 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 2 8 詩を楽しむ Gérard de Nerval 1 9 詩を楽しむ Gérard de Nerval 2 10 詩を楽しむ Gérard de Nerval 3 11 詩を楽しむ Apollinaire 1 12 詩を楽しむ Apollinaire 2 13 詩を楽しむ Apollinaire 3 14 詩と解釈、翻訳の問題（まとめ） 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度（出席と発表）、試験（できるだけ多くの詩句を暗記する）、あるいは課題を前もって示す試験（詩句の解釈と翻訳）。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>声に出して読むフランス語</p> <p>フランス語で書かれたテキスト（文章など）を、聞いただけでわかるように読むことを目指します。授業でも、実際に繰り返し声に出して読んでいただきます。</p> <p>読む本人がわかっていなければ、聞いているひとがわかることは非常に難しいでしょう。</p> <p>書かれたテキストの意味をとらえ、ひとに伝える力を、実践をとおして身につけていきます。</p>		<p>A4一枚程度のテキストを、その回の授業内容・目標に応じて前もって、あるいは当日その場で配布し、さまざまな作業をおこないます。（この作業に参加していただかなければ科目としての意味をなしませんので、授業に出てこないひとの成績評価は3年生はFまたはX、4年生はFGまたはXになります。）</p> <p>テキストとして、たとえば <i>Le Petit Prince</i> や <i>Déclaration des droits de l'homme et du citoyen</i> の冒頭のように、非常に有名なものからいくつかは必ずとりあげ、できる限り暗記していただきます。学期をとおしては、フランス語として質が高く、かつ多種多様なものになるよう留意します。また、受講者の希望もできる限りとりいれます。（それぞれの回でとりあげるテキストは現時点で未定ですし、授業開始後も漸次決定していくことになります。）</p> <p>第1回めに、授業のすすめ方、評価方法などについてより詳しく説明し、質問にもできる限りこたえますので、受講予定者は必ず出席してください。</p> <p>なお、追試験・再試験は一切おこないませんので、留意すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>使用教材は担当者が用意します。</p> <p>参考文献は、さまざまなものを授業中に紹介していきます。</p>		<p>毎回の授業をとおしておこないます。</p> <p>科目登録は「授業計画」欄に書かれていることを熟慮したうえでおこなうこと。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランス芸術文化講読 I（担当者 横地）」参照		「フランス芸術文化講読 I（担当者 横地）」参照	
テキスト、参考文献		評価方法	
「フランス芸術文化講読 I（担当者 横地）」参照		「フランス芸術文化講読 I（担当者 横地）」参照	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。 同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。</p> <p>講義概要： 授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。</p> <p>一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。</p>		<p>1. ガイダンス+テキスト配布+訳読 2-15. 訳読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点（毎回の発表）と定期試験。 授業中に課題を出す可能性もあります。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。 同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。</p> <p>講義概要： 授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。</p> <p>一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。</p>		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点（毎回の発表）と定期試験。 授業中に課題を出す可能性もあります。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インターネット時代にまず要求される語学力は文章読解力でしょう。それだけでなく、フランス語をきちんと話したり書いたりできるようになりたかったら、まずはしっかりと読むことから始めないとはいけません。文字情報は音声情報よりもずっと豊かなものだからです。この授業では、話したり書いたりするときにも役に立つ知識を、いかに読みながら獲得するかという観点から、きちんとした読解力を身につけるための基礎訓練を行います。</p> <p>今年度は、フランスの少年少女向け物語の中でも根強い人気を誇るロングセラー、Pierre Gripari著 <i>Contes de la rue Broca</i> 『プロカ通りの物語』から数篇を選んで読みます。文章は平易でユーモアにあふれたものですが、だからといって舐めてかかると、試験の時に青くなる可能性が高いでしょう。</p> <p>春学期は <i>La sorcière du placard aux balais</i> と <i>Roman d'amour d'une patate</i> を読む予定です。</p>		<p>1. 授業概要の説明、テキストの紹介 2～15. 講読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントで配付。		平常点、学期末定期試験を総合的に勘案して評価。ただし、一度も授業中に訳を担当しなかった者は、試験の成績如何に関わらず F 評価とする。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に同じ。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。</p> <p>秋学期は <i>Scoubidou, la poupée qui sait tout</i> と <i>La maison de l'oncle Pierre</i> を読む予定です。</p>		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p>Contenu : Nous lirons ensemble un texte de Yaël Hassan, Momo, petit prince des bleuets. Avec ce livre, nous suivrons Momo à la bibliothèque où il découvre le monde des livres, puis au parc de son quartier où il fera la connaissance d'un vieux monsieur qui deviendra son ami. Trois thèmes sont abordés dans ce livre : l'amitié, la passion de la lecture, la maladie chez les personnes âgées.</p>		<p>Lecture suivie du livre <i>Momo, petit prince des bleuets</i>. Pour Momo, l'été s'annonce interminable à la cité des Bleuets. Du jour où il s'inscrit à la bibliothèque, le cours de ses vacances change. Momo se met à lire avec passion et fait la connaissance de Monsieur Edouard, un instituteur à la retraite. Ensemble, ils ont de grands projets... Une fois que les pages lues ensemble auront été comprises, nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant « les grandes vacances ».</p> <p>Attention : nous continuerons la lecture de <i>Momo, petit prince des bleuets</i> pendant le deuxième semestre.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours Contrôle continu	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p>Contenu : Nous lirons ensemble un texte de Yaël Hassan, Momo, petit prince des bleuets. Avec ce livre, nous suivrons Momo à la bibliothèque où il découvre le monde des livres, puis au parc de son quartier où il fera la connaissance d'un vieux monsieur qui deviendra son ami. Trois thèmes sont abordés dans ce livre : l'amitié, la passion de la lecture, la maladie chez les personnes âgées.</p>		<p>Nous continuerons la lecture de <i>Momo, petit prince des bleuets</i> commencée en avril avec la ferme intention d'aller jusqu'au bout de cette histoire très émouvante. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre, ci-dessus.</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises.</p> <p>Puis, nous consacrerons une partie du cours aux échanges portant sur le livre que chaque étudiant aura lu ou commencé à lire, tout seul, pendant "les grandes vacances". Pour cette deuxième partie du cours, nous travaillerons en petits groupes afin de parvenir à une meilleure compréhension du texte.</p> <p>Très IMPORTANT : les étudiants qui s'inscrivent à mon cours en avril sont priés de suivre le cours pendant le deuxième semestre. D'autre part, je ne souhaiterais pas avoir de nouveaux étudiants en septembre, car ils arriveront en plein milieu de la lecture du livre commencée en avril, ce qui ne présente aucun intérêt. Cependant, les nouveaux étudiants qui souhaiteraient suivre ce cours seulement à partir du mois de septembre sont invités à venir me voir début juillet.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopie Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours Contrôle continu	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、「一生に何度でも読み返せる一冊」をテーマに、19世紀末・20世紀初頭のフランス文学に計り知れない影響を与えた2作の長編をとりあげます。</p> <p>春学期の講義では、J-K. ユイスマンスの『さかしま』（1886）を読みます。科学が進歩し、華やかなベル・エポックを迎えようとするパリに背を向け、人工美を礼賛するデカダンスの美学を打ちたてた象徴的な作品です。</p> <p>俗世間を憎み、病的なほど美を愛する独身貴族デ・ゼッサントの邸は、絢爛豪華な図書館・美術館でもあります。従来のどんな小説とも異なる、世紀末特有の幻想や夢に浸された作品世界は、読むほどに妖しい魅力を放ちます。</p> <p>受講者は必ず原書を1冊購入すること。授業内では通読できませんが、好きなだけ読み進めてください。やすやすと読みこなせる原文ではなく、文化的知識も必要ですが、絵画を多数見せて世紀末の芸術的背景を説明します。</p> <p>初回のイントロダクションには出席すること。学期中に翻訳で一度通読しておくことを強く勧めます。</p>		<p>第1回：進歩と退廃、世紀末のパリ</p> <p>第2回：デ・ゼッサントの憂鬱</p> <p>第3回：『さかしま』第一章</p> <p>第4回：フォンタネーの人工天国</p> <p>第5回：『さかしま』第三章</p> <p>第6回：デカダンスの書齋</p> <p>第7回：『さかしま』第四章</p> <p>第8回：リキュールのオルガン</p> <p>第9回：宝石をちりばめた亀</p> <p>第10回：『さかしま』第五章</p> <p>第11回：モローの『サロメ』</p> <p>第12回：ルドンの幻想版画</p> <p>第13回：『さかしま』第十一章</p> <p>第14回：旅立ちの失敗</p> <p>第15回：夢の終わり</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>J-K. Huysmans, <i>À Rebours</i>, Gallimard</p> <p>ユイスマンス『さかしま』澁澤龍彦訳、河出文庫</p> <p>高階秀爾『世紀末芸術』、ちくま学芸文庫</p>		<p>学期中の宿題（訳読・朗読など）と期末レポート。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、プルーストの大作『失われた時を求めて』に含まれる一篇、『スワンの恋』を読みます。</p> <p>「私」による一人称の語り貫かれた長編のなかで、『スワンの恋』だけは三人称小説です。そして『スワンの恋』には、『失われた時を求めて』を通じて展開される、芸術の創造と受容、パリ社交界の勢力図、なにより恋の嫉妬と苦しみという重要なテーマがすべて含まれています。</p> <p>授業ではスワンとオデットの恋を読み解きつつ、ワグナーのオペラ、ドビュッシーの室内楽、高級レストラン、貴族やブルジョワのディナー・パーティーなど、ベル・エポックのパリを彩る文化・芸術的背景を解説してゆきます。</p> <p>受講者は必ず原書を1冊購入すること。授業内で通読することはできませんが、好きなだけ読み進めてください。プルーストは一文が長いことで有名ですが、けっして文法的に難解なわけではなく、構文さえ把握できればかえって読みとく楽しみが増す美しい文章です。</p> <p>初回のイントロダクションには出席すること。学期中に翻訳で一度通読しておくことを強く勧めます。</p>		<p>第1回：ベル・エポックの大社交界</p> <p>第2回：『スワンの恋』（1）</p> <p>第3回：シックとエレガンス</p> <p>第4回：『スワンの恋』（2）</p> <p>第5回：絵画のコレクション</p> <p>第6回：『スワンの恋』（3）</p> <p>第7回：ヴァントウイユのソナタ</p> <p>第8回：『スワンの恋』（4）</p> <p>第9回：馬車とレストラン</p> <p>第10回：『スワンの恋』（5）</p> <p>第11回：大公夫人のドレス</p> <p>第12回：『スワンの恋』（6）</p> <p>第13回：嫉妬という病</p> <p>第14回：『スワンの恋』（7）</p> <p>第15回：「ぼくの趣味にもあわなかった女のために！」</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Marcel Proust, <i>Du côté de chez Swann</i>, Gallimard</p> <p>プルースト『スワン家のほうへ』鈴木道彦訳、集英社文庫</p> <p>吉川一義『プルースト スワンの恋を読む』、白水社</p>		<p>学期中の宿題（訳読・朗読など）と期末レポート</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅰ フランス文学講読 a	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>手加減のない本当のフランス語と取り組みあう楽しさを、たった一度でも、身をもって知ること。それが、この授業の目的です。「身をもって」というのは、つまり、自力で予習をし、納得するまで復習をするということです。そのふたつの時間をつなぐものとして、授業を活用してください。</p> <p>テキストは、16世紀から19世紀までのフランス文学のなかから、とりわけ有名で、とりわけ胸をうつパッセージばかりを集めました。それぞれの抜粋を、1回～2回をかけて精読してゆきます。</p> <p>初回の授業から読み始めます。辞書をもって必ず出席して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. モンテーニュ『エッセー』 2. モンテーニュ『エッセー』 3. パスカル『パンセ』 4. パスカル『パンセ』 5. ラシーヌ『フェードル』 6. ラ・フォンテーヌ『寓話詩』 7. ラ・フォンテーヌ『寓話詩』 8. ルソー『告白』 9. ルソー『告白』 10. スタンダール『赤と黒』 11. スタンダール『赤と黒』 12. メリメ『カルメン』 13. メリメ『カルメン』 14. フロベール『ボヴァリー夫人』 15. フロベール『ボヴァリー夫人』 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室でプリントを配布。『フランス文学史』（東京大学出版）を持っておくとよいです。		無遅刻・無欠席が原則です。挙手による発表、授業態度、筆記試験。暗唱テストが入る可能性もあります。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅱ フランス文学講読 b	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は主に20世紀の作家のテキストを使用します。さまざまなフランス語にふれながら、作家ごとの文体、リズム、声、手触りの違いを感じ取ってください。</p> <p>春学期・秋学期とも、発表は挙手制です。発表および試験では「日本語にする」だけではなく、「動詞の時制はなにか」「構文がきちんと取れているか」「代名詞が指すものを理解しているか」「なぜこの接続詞がつかわれているのか」などが問われます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ランボー「感覚」 2. ランボー「谷間に眠るもの」 3. プルースト『失われた時を求めて』 4. プルースト『失われた時を求めて』 5. ジッド『地の糧』 6. コレット『シュェリ』 7. コレット『シュェリ』 8. カミュ『異邦人』 9. デュラス『ラマン』 10. ポンジュ『ものの味方』 11. ポンジュ『ものの味方』 12. ミショー『プリューム』 13. ミショー『プリューム』 14. レリス『角笛と叫び』 15. レリス『角笛と叫び』 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室でプリントを配布。『フランス文学史』（東京大学出版）を持っておくとよいです。		無遅刻・無欠席が原則です。挙手による発表、授業態度、筆記試験。暗唱テストが入る可能性もあります。	

08年度以降 07年度以前	フランス地域論 I フランスの地誌 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスの地域の枠組みおよび主体としての公共団体は我が国のそれと比較した場合に、類似する側面とある意味で反対の側面をもっている。学期の前半では、フランスの地方の制度の実態と特徴を学び、地域のあり方について考える。</p> <p>フランスの地域の枠組みとしての現代の地方制度を理解した上で、それがもつ意味を、その成立の経緯を通して学ぶ。まず、旧プロヴァンスを基本的に否定する地方制度として誕生した現代のデパルトマンの成立の経緯とそれに託された意味を考える。次に、広域の地方としてのレジオンの成立の経緯とその意味を考察する。さらに、日本の市町村に対応する基礎的自治体としてのコミューヌの実情およびその合併と連合を通して、身近な地域の枠組みのあり方について考える。</p> <p>学期の後半では、地域における生活を支える小売り商業とその中心地の変化およびそれに伴う問題への対応について学び、地域と小売り商業のあり方について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. 地域の枠組み 3. 海外フランス 4. プロヴァンスからデパルトマンへ 5. レジオンの誕生 6. 基礎自治体としてのコミューヌ 7. コミュューヌの合併と連合 (1) 8. コミュューヌの合併と連合 (2) 9. コミュューヌの合併と連合 (3) 10. 中間のまとめ 11. 地域と商業中心 (1) 12. 地域と商業中心 (2) 13. 地域と商業中心 (3) 14. 地域と商業中心 (4) 15. まとめ <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。</p>		<p>試験またはレポートの結果によって評価する。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス地域論 II フランスの地誌 b	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスの地域および社会を幾つかの主題を通して学ぶことによって、その実態を知ると同時に、地域と社会をめぐる問題について考える。</p> <p>講義の主題と概要はおおよそ以下の通りである。</p> <p>まず、現代フランス社会における若者の意識をアンケート調査結果を通して窺い、その背景について考える。</p> <p>次に、フランスの大都市郊外部などに見られる、経済、生活、社会、住環境などの水準が低下した地域の再生に向けた『都市政策』の取り組みを通して、現代フランスの地域社会について学ぶ。</p> <p>さらに、地域の物的な環境を景観と住まいの視点から学び、その特徴について考える。</p> <p>また、フランスの地域および社会における活動の主体としてのアソシアシオンすなわち非営利団体の制度および実態について学び、その可能性について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. 地域と社会：若者の意識 (1) 3. 地域と社会：若者の意識 (2) 4. 地域と社会：若者の意識 (3) 5. フランスの都市政策 (1) 6. フランスの都市政策 (2) 7. フランスの都市政策 (3) 8. フランスの都市政策 (4) 9. フランスの都市政策 (5) 10. 中間のまとめ 11. 都市空間と住まい (1) 12. 都市空間と住まい (2) 13. アソシアシオン (1) 14. アソシアシオン (2) 15. まとめ <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。</p>		<p>試験またはレポートの結果によって評価する。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの歴史 I フランスの歴史 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の概説講義です。古代、中世、近世の各時代を概観します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 古代1：ケルト時代 3. 古代2：ガロ＝ローマ時代 4. 古代3：古代まとめ 5. 中世1：初期中世 6. 中世2：盛期中世 7. 中世3：後期中世 8. 中世4：中世まとめ 9. 近世1：16世紀 10. 近世2：17世紀 11. 近世3：18世紀 12. 近世4：フランス革命 13. 近世5：近世まとめ 14-15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、まとめテスト	

08年度以降 07年度以前	フランスの歴史 II フランスの歴史 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
前半は、フランス 19 世紀を概観します。後半は、古代から近代までのフランス史の具体的なテーマを取り上げて論じます。史料講読や、スライドや DVD などを見る時間も設ける予定です。取り上げるテーマや詳細な授業計画は最初のガイダンスで説明します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2～5. フランス 19 世紀 6～9. テーマ 1 10～13. テーマ 2 14～15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、まとめテスト	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済 I フランスの経済 a	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。</p> <p>初めにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。</p> <p>政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス政治史① 2. フランス政治史② 3. フランス政治史③ 4. 現代フランスの政治システムの概要 5. 議会 6. 官僚制 7. 政党システム① 8. 政党システム② 9. 政党システム③ 10. 選挙 11. 政治的リーダーシップ 12. 政策決定過程 13. 社会運動 14. 中央-地方関係 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		小テストと期末テスト。	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済 II フランスの経済 b	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では年金や医療保険などのフランスの社会保障制度の仕組みと最近の改革の動向を日本と比較しながら学習します。</p> <p>2006年にフランスはスウェーデンを追い越し世界最大の福祉国家になりました（対GDP比）。公的年金や医療保険などの社会保障制度の改革は政治家にとっても有権者にとっても最大の関心事の一つです。いまや社会保障は政治・経済に関する議論の中心に位置していると言っても過言ではありません。</p> <p>日本も人口の高齢化・政府の財政難・雇用の不安定化などの問題に直面し、社会保障改革が喫緊の課題になっています。</p> <p>そこでこの講義ではまず社会保障とは何を目的とした制度なのかを明らかにします。次に年金や医療保険などの個々の社会保障制度の基本的な仕組みと、日仏における改革動向について解説します。</p> <p>講義と試験を通じて、学期の終わりには年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 社会保障とは何か？ 3. フランスの社会保障システム 4. フランスにおける経済・人口・社会の動向 5-6. 年金制度 7-8. 医療保険制度 9. 高齢者介護 10-11. 雇用政策（失業・非正規雇用・若者の就職） 12-13. 公的扶助（生活保護） 14. 家族政策（児童手当・保育サービス） 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		中間テストと期末テスト。	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済 I フランスの政治 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代のフランス社会について体系的に理解するうえで、フランスの政治システムや経済の特徴について学ぶことも有益だと言えるでしょう。本講義は、フランスの政治経済についての基礎的な知識の習得を目的とします。具体的には、フランスの政治経済の変遷を歴史的に辿るとともに、現在の政治制度や経済の状況について学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 第二帝政以前(1) 3. 第二帝政以前(2) 4. 第三共和制からヴィシー政府(1) 5. 第三共和制からヴィシー政府(2) 6. 第四共和制(1) 7. 第四共和制(2) 8. 第五共和制の成立 9. 第五共和制下における政権交代(1) 10. 第五共和制下における政権交代(2) 11. 第五共和制の政治制度(1) 12. 第五共和制の政治制度(2) 13. 現在のフランス経済(1) 14. 現在のフランス経済(2) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業の際に指示します。		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済 II フランスの政治 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきました。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を担ってきました。本講義では、第2次世界大戦以前から今日のEUに至るまでの過程において、ヨーロッパ統合構想にフランスがどのように関わってきたかを学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 戦前の統合構想(1) 3. 戦前の統合構想(2) 4. 戦後復興と経済近代化 5. シューマン・プランと ECSC 6. EEC の設立に向けて 7. ドゴールとヨーロッパ統合(1) 8. ドゴールとヨーロッパ統合(2) 9. 1970年代のフランスと統合 10. ミッテラン時代の統合政策(1) 11. ミッテラン時代の統合政策(2) 12. シラク時代の統合政策(1) 13. シラク時代の統合政策(2) 14. サルコジ政権期以降今日まで 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：吉田徹編『ヨーロッパ統合とフランス』法律文化社、2012年		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

08年度以降 07年度以前	フランス現代思想 I フランスの思想 a	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：「粹」をこわす思想</p> <p>20世紀のフランスにおいて、さまざまな「粹」をこわした思想家や作家たちをとりあげます。「人間」「性」「肌」「国境」「本質」「制度」「権力」「文学」など、さまざまな既成の「粹」がどんなふうにくわされてゆくのか、抜粋テキストを読み解きながら、参加者とともに考えてゆきます。</p> <p>実存主義、ジェンダー論、テーマ批評、記号論、構造主義、ポストコロニアリズム等の基礎を学ぶことになります。むずかしそうに聞こえるかもしれませんが、毎回どこかで「自分にも身におぼえのある話」が出てくるはず。単なる知識としてではなく「自分にも関わりのある話」「自分の日常を変えるかもしれないなにか」として、言葉や思想に触れる楽しみを味わってください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第一の粹：「人間」 2. サルトル『実存主義とは何か』 3. サルトル『嘔吐』 4. サルトル『言葉』 5. サルトル『ユダヤ人』 6. 一九六八年五月 7. 第二の粹：「性」 8. ボーヴォワール『第二の性』 9. ボーヴォワール『娘時代』 10. ボーヴォワール『穏やかな死』 11. 第三の粹：「肌」 12. レリス「植民地主義を前にした民族誌学者」 13. ファノン『黒い皮膚・白い仮面』 14. ファノン『地に呪われたるもの』 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布します。		出席、授業への参加態度、毎回のコメントペーパー、レポート。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代思想 II フランスの思想 b	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続きなので、継続履修が望ましいですが、秋学期からの履修も可能です。</p> <p>講義をすすめてゆくなかで、参加者にもつぎつぎと質問をします。授業の半分は自分たちがつくるものだという認識をもって、積極的に授業に参加してください。</p> <p>毎回の授業の終わりにコメントペーパーを提出していただきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第四の粹：「前提」 2. ソシュール：実体論から関係論へ 3. バルト『モードの体系』 4. バルト『表徴の帝国』 5. 第五の粹：「文学」 6. バルト『零度のエクリチュール』 7. バシュラール『空間の詩学』 8. 第六の粹：「一般性」 8. バルト『明るい部屋』：惑乱的な細部 9. レリス「フランソワ・ヴィヨンの小指」 10. バルト『恋愛のディスクール』 11. 第七の粹：「制度」と「権力」 12. フーコー『監獄の誕生』 13. フーコー『狂気の歴史』 14. フーコー『性の歴史』 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布します。		出席、授業への参加態度、毎回のコメントペーパー、レポート。	

08年度以降	現代フランス論 I	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では現代フランスにおける医療をめぐる様々な問題について考えていきます。</p> <p>2000年に国連のWHO（世界保健機関）が発表した世界の医療制度パフォーマンス・ランキングでフランスは第1位にランクされました（日本は10位）。</p> <p>とはいえフランスの医療制度に問題がないわけでは決してありません。日本の場合と同様に、様々な問題に直面して厳しい緊張状態に置かれているといった方が正確でしょう。財源問題、医療の質の確保、平等の維持、医療と介護との連携、病院のリストラ問題など枚挙に暇がありません。</p> <p>講義では国際比較の視点に立ちながら（とくに日本・アメリカ・イギリスの例を参照します）、フランスの医療の現状、問題点、その解決策について詳しく検討していきます。映像資料や統計資料を多く利用する予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 現代医療をめぐる諸問題 3. 医療制度の歴史的発展 4. 医療制度の国際比較 フランスの位置づけ 5. なぜいま医療制度改革なのか？ 6-7. 英米における医療制度改革 国家と市場の役割分担 8. 日仏における医療制度改革① 医療費抑制 9. 同② 財源の拡大 10. 同③ 医療の質 11. 同④ 平等なアクセス 12. 同⑤ 高齢者介護 13. 同⑥ 病院のリストラ問題 14-15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		小レポートと期末テスト。	

08年度以降	現代フランス論 II	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義ではフランス社会の様々な不思議な点、より正確には日本と異なる点に着目して、そうした違いがなぜ生じているのかについて比較社会科学的に考えていきます。</p> <p>身近な例では、フランスに行くと歩行者があまり信号を守らないので驚きます。反対に、なぜ日本の歩行者はほとんど車が走っていないような交差点でも信号待ちをしているのでしょうか。ここで「国民性の違い」や「文化の違い」とだけ言うてもあまり説得力がありません。人々の「性格」は一人ひとり異なりますし、「文化」も国内の地域によって異なっているはずです。</p> <p>この講義ではこうしたわかったようなわからないような説明から一歩先に進んで、異なる社会における慣習や制度の違いを合理的かつ説得的に説明する方法について解説します。とりあげる予定のテーマは右の授業計画の通りです。これらのテーマの検討を通じてフランス社会に対する理解が一段と深まるはずです。</p> <p>学期の後半には受講者の皆さんに研究テーマを決めてもらい、成果を発表していただく予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 不思議の国フランス？ 2. 比較社会科学の方法論 3. なぜ政教分離をめぐって延々と議論が続くのか 4. なぜいつでもどこでもストに出会うのか 5. なぜ標識がバイリンガル表記なのか 6. なぜマクドナルドを「解体」すると拍手喝采されるのか 7. なぜアメリカを目の敵にするのか 8. なぜ大学生がストライキをするのか 9. なぜ美味しいフォーやクスクスが食べられるのか 10. なぜ消費税率が高いのか 11. なぜ原発大国なのか 12. なぜ極右政党が存在するのか 13. なぜ出生率が高いのか 14-15. 受講者による研究発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
小田中直樹『フランス7つの謎』文春新書、2005年		<ol style="list-style-type: none"> ① 毎回コメントシートを配布して平常点をコントロールします（単なる出席点ではありません）。 ② グループまたは個人での研究発表。 	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会各論 I フランス文化・社会各論 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>La francophonie dans l'océan Pacifique sud : Nouvelle-Calédonie, Vanuatu, Wallis et Futuna et Polynésie française.</p> <p>Ce cours a pour but d'étudier, à travers le cas des territoires francophones du Pacifique sud, l'intégration dans une même société d'individus, de groupes, de cultures d'origines différentes. Le respect de la différence est-il possible ? Est-il souhaitable ? Le cours se concentrera sur le cas de la Nouvelle-Calédonie.</p> <p>Le contenu du cours pourra varier pour tenter de répondre aux souhaits des étudiants mais il faut avoir une bonne connaissance du français et de sa grammaire et un grand intérêt pour les questions sociales... même sous le soleil des îles !</p>		<p>1. Introduction générale</p> <p>2-3. Données géographiques de l'océan Pacifique.</p> <p>4-6. Aperçu géographique et économique de la Nouvelle-Calédonie.</p> <p>7-9. Aperçu géographique et économique du Vanuatu.</p> <p>10-11. Aperçu géographique et économique de Wallis et Futuna.</p> <p>12-13. Aperçu géographique et économique de la Polynésie française.</p> <p>14. La question des essais nucléaires en Polynésie française.</p> <p>15. Conclusions du premier semestre.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Polycopiés, internet, extraits de films. Voir le site internet de l'Université Laval sur la francophonie.		Variable selon le nombre des étudiants : examen ou rapport.	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会各論 II フランス文化・社会各論 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir ci-dessus la présentation du cours.</p> <p>Après une introduction sur l'arrivée de différents peuples dans l'océan Pacifique sud, Le deuxième semestre est consacré à la Nouvelle-Calédonie et plus spécialement à la coexistence des différentes communautés, dans une approche historique.</p>		<p>1. Bilan du 1^{er} semestre et introduction du second.</p> <p>2. Le peuplement de l'océan Pacifique.</p> <p>3. La découverte par les Européens du Pacifique.</p> <p>4. La colonisation occidentale du Pacifique.</p> <p>5. La découverte de la Nouvelle-Calédonie.</p> <p>6. La société kanake au moment de la découverte.</p> <p>7-8. Les immigrations en Nouvelle-Calédonie.</p> <p>9. Résistance et révoltes des Kanaks.</p> <p>10. La Seconde Guerre mondiale.</p> <p>11. Émancipation juridique des Kanaks.</p> <p>12. Conflits ouverts des années 80.</p> <p>13. Les accords de Matignon et de Nouméa.</p> <p>14. Perspectives d'avenir : l'indépendance ou non ?</p> <p>15. Conclusions</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Polycopiés, internet, extraits de films.		Variable selon le nombre des étudiants : examen ou rapport.	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。</p> <p>講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学ぶ。年間の講義時間を考慮して、春学期に取り上げる遺産は2件程度とし、前年度読んでいないものを取り上げる。</p> <p>講義は、受講生が予め割り当てられたテキストの部分について予習して発表し、その後で、それに対するコメントや補足説明などを行う形で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. 世界遺産制度 (1) 3. 世界遺産制度 (2) 4. 世界遺産制度 (3) 5. 世界遺産制度 (まとめ) 6. カルカッソヌ (1) 7. カルカッソヌ (2) 8. カルカッソヌ (3) 9. カルカッソヌ (4) 10. カルカッソヌ (まとめ) 11. サンテ・ミリオン地域 (1) 12. サンテ・ミリオン地域 (2) 13. サンテ・ミリオン地域 (3) 14. サンテ・ミリオン地域 (4) 15. サンテ・ミリオン地域 (まとめ) <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果および授業中の発表を考慮して評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。</p> <p>講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学びます。年間の講義時間を考慮して、秋学期に取り上げる遺産は3件程度とし、前学期および前年度とは異なるものを取り上げる</p> <p>講義は、受講生が予め割り当てられたテキストの部分について予習して発表し、その後で、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. ロワール渓谷 (1) 3. ロワール渓谷 (2) 4. ロワール渓谷 (3) 5. ロワール渓谷 (4) 6. ロワール渓谷 (まとめ) 7. ベルギーとフランスの鐘楼群 (1) 8. ベルギーとフランスの鐘楼群 (2) 9. ベルギーとフランスの鐘楼群 (3) 10. ベルギーとフランスの鐘楼群 (4) 11. ベルギーとフランスの鐘楼群 (まとめ) 12. 中世市場都市プロヴァン (1) 13. 中世市場都市プロヴァン (2) 14. 中世市場都市プロヴァン (3) 15. 中世市場都市プロヴァン (まとめ) <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果および授業中の発表を考慮して評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスの目的は、</p> <p>(1) 日常表現とはやや異質な、理屈が展開していくような文章の読解力を養うこと、またその種の文章に出てくる語彙に慣れること、</p> <p>(2) フランス社会を理解する様々な入り口を提供する(できれば、それが日本社会も含めた現代世界を理解する入り口になることを希望しますが)こと、の2つです。</p> <p>様々な入り口として、時事的・メディア的、「社会」的、歴史・政治・経済的、哲学・文学芸術的な接近を設定してみます。考える手がかりになるものを何でも読んでみようということになるでしょう。なお、フランス人による文章だけでなく、外国人のフランス論(フランス語で書かれたもの、翻訳)も読んでみたいと思っています。</p> <p>仏和辞典は必ず持参してください。</p> <p>1回目の授業で追加の説明を行いますので必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入. 2. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(1) 3. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(2) 4. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(3) 5. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(4) 6. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(5) 7. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(6) 8. まとめと復習 9. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(1) 10. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(2) 11. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(3) 12. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(4) 13. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(5) 14. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(6) 15. まとめ. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはこちらで用意します。テキストのレベルは履修者の語学力によって考えます。</p>		<p>評価は、平常点(クラスの人数にもよりますがほぼ毎回「当たる」ようにしたいと思います)と期末テストによって判断します。各 50 パーセントと考えています。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的に I の続きです。</p> <p>このクラスの目的は、</p> <p>(1) 日常表現とはやや異質な、理屈が展開していくような文章の読解力を養うこと、またその種の文章に出てくる語彙に慣れること、</p> <p>(2) フランス社会を理解する様々な入り口を提供する(できれば、それが日本社会も含めた現代世界を理解する入り口になることを希望しますが)こと、の2つです。</p> <p>様々な入り口として、時事的・メディア的、「社会」的、歴史・政治・経済的、哲学・文学・芸術的な接近を設定してみます。考える手がかりになるものを何でも読んでみようということになるでしょう。なお、フランス人による文章だけでなく、外国人のフランス論(フランス語で書かれたもの、翻訳)も読んでみたいと思っています。</p> <p>仏和辞典は必ず持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入. 2. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(1) 3. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(2) 4. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(3) 5. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(4) 6. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(5) 7. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(6) 8. まとめと復習 9. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(1) 10. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(2) 11. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(3) 12. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(4) 13. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(5) 14. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(6) 15. まとめ. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはこちらで用意します。テキストのレベルは履修者の語学力によって考えます。</p>		<p>評価は、平常点(クラスの人数にもよりますがほぼ毎回「当たる」ようにしたいと思います)と期末テストによって判断します。各 50 パーセントと考えています。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランスの文化・社会講読 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なフレーズやエピソードを集めて、フランスの子供向けに解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料を読む予定です。前期は中世から3章を選んで読みます。		1. 授業ガイダンス 2~14. 講読 « D'où viens-tu Du Guesclin ? » 他 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		平常点、まとめテスト	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランスの文化・社会講読 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なフレーズやエピソードを集めて、フランスの子供向けに解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料を読む予定です。後期は近現代から3章を選んで読みます。		1. 授業ガイダンス 2~14. 講読 « Sous les pavés, la plage ! » 他 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		平常点、まとめテスト	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ミシュレ『魔女』を読む」</p> <p>フランス19世紀の歴史学者ジュール・ミシュレの『魔女』を読みながら、「差別／被差別」、「排斥の論理」、「異端」等、現代社会の諸問題を考える契機をみつけましょう。</p> <p>私たちの周辺にも「魔女」が造り出されていないか。不当あるいは不合理に、社会から排除・抹殺されようとしている存在がないか。そのような「差別・排斥」に加担してはいないか、等を考えます。</p> <p>遠く時代を離れた「暗黒の中世」を鏡として、近代フランス社会の成立過程を考察した歴史学者に倣って、明晰かつ名文のフランス語を解説しながら、現代日本の社会問題を考える手がかりを探します。</p> <p>テキストの読解を通じて、「現代社会」を読む鍛錬になることを期待します。</p> <p>使用テキスト：Michlet, <i>La Sorcière</i>, texte intégral, Garnier Flammarion, 1966.</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <p>1：フランスの社会・歴史・文学 2：ジュール・ミシュレについて 3：「フランス中世」の歴史と文学 4：ミシュレ『魔女』「序論」(1) 5：ミシュレ『魔女』「序論」(2) 6：「神々の死」(1) 7：「神々の死」(2) 8：「神々の死」(3) 9：「誘惑」(1) 10：「誘惑」(2) 11：「誘惑」(3) 12：「悪魔との契約」(1) 13：「悪魔との契約」(2) 14：まとめと展望（ミシュレの神話的主題について） 15：講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは随時プリントで配布する。参考書は教室で指示する。		授業への参加度（出席と発表）、課題を前もって示す試験。（あるいはレポート）	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ミシュレ『ジャンヌ・ダルク』を読む」</p> <p>フランス近代歴史学の創始者ともいべきジュール・ミシュレの『ジャンヌ・ダルク』を読みながら、「聖女／魔女」、「救国神話」、「異端」、「排斥」等、現代社会の諸問題を考える契機をみつけましょう。</p> <p>フランス語のテキストを読みながら、「ジャンヌ・ダルク」の伝説・神話がどのような契機で造り出されてきたのか、「社会の混乱と伝説・神話の誕生」を考えます。なぜ19世紀の歴史学者が、「ジャンヌ・ダルク」に関心をもったのか。その後、20世紀にも、演劇として上演され（ジャン・アヌイ『ひばり』1953、他）、映画化(Luc Besson, <i>Jeanne d'Arc</i>, 1999)もされてきたのはなぜでしょうか。</p> <p>遠く時代を離れた「中世」を鏡として、近代フランス社会を考察した歴史学者に倣って、明晰なフランス語を解説しながら、現代日本の社会問題を考える手がかりを探しましょう。</p> <p>テキストの読解を通じて、「現代社会」を読む鍛錬になることを期待します。</p> <p>使用テキスト：Michlet, <i>Jeanne d'Arc</i>, folio, Gallimard, 1974.</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <p>1：フランスの社会・歴史・文学 2：ジュール・ミシュレについて 3：「フランス中世」の歴史と文学 4：「ジャンヌ・ダルク」の歴史・伝説・神話 5：ミシュレ『ジャンヌ・ダルク』「序論」(1) 6：ミシュレ『ジャンヌ・ダルク』「序論」(2) 7：「ジャンヌの子供時代とその招命」 8：「ジャンヌ、オルレアンを解放し王を祝聖させる」 9：「ジャンヌ、裏切られ売り渡される」 10：「裁判 -- ジャンヌ、教会に従うことを拒絶」(1) 11：「裁判 -- ジャンヌ、教会に従うことを拒絶」(2) 12：「誘惑」 13：「死」 14：まとめと展望（ジャンヌの神話伝説的主題について） 15：講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは随時プリントで配布する。参考書は教室で指示する。		授業への参加度（出席と発表）、課題を前もって示す試験（あるいはレポート）。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランスの文化・社会講読 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、フランス語のテキストを通して、フランス社会における重要な問題のひとつである移民問題について学びます。</p> <p>本講義の目的は、できるだけ多くの文章をフランス語で読むことにより、社会科学系の文章に慣れるとともに、文章の要旨を把握する力を鍛えることにあります。1回の授業で扱うテキストの分量が多いので、はじめは予習が大変かもしれませんが、回を重ねるごとに楽になっていくのではないかと思います。</p>		<p>春学期は、フランスにおける移民の歴史を概観します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 19世紀末から第1次大戦(1) 3. 19世紀末から第1次大戦(2) 4. 19世紀末から第1次大戦(3) 5. 両大戦間期(1) 6. 両大戦間期(2) 7. ヴィシー政権期 8. 栄光の30年(1) 9. 栄光の30年(2) 10. 栄光の30年(3) 11. 1970年代の不況から今日まで(1) 12. 1970年代の不況から今日まで(2) 13. 1970年代の不況から今日まで(3) 14. EUの移民政策とフランス 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		平常点(30%)と複数回の小テスト(70%)で評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同様にフランスにおける移民問題を扱いますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、春学期に学んだことを前提にして授業を進めるので、秋学期からの履修者は予習をして移民問題に関する文章に慣れておいてください。</p>		<p>次のようなテーマのテキストを扱う予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. フランス国籍の取得方法 3. フランスのサッカーチームと移民 4. 労働力としての移民(1) 5. 労働力としての移民(2) 6. 移民と家族(1) 7. 移民と家族(2) 8. アルジェリア移民(1) 9. アルジェリア移民(2) 10. 亡命者とフランス 11. 移民とスラム街(1) 12. 移民とスラム街(2) 13. 人種差別に対する戦い(1) 14. 人種差別に対する戦い(2) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		平常点(30%)と複数回の小テスト(70%)で評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	M.デルヴロワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours, destiné aux étudiants de troisième et de quatrième année, vise principalement à développer les compétences de l'étudiant pour expliquer et comprendre un texte court en français d'un niveau relativement facile. Nous utiliserons des textes français qui montrent essentiellement le mode de vie quotidien et les problèmes sociaux que peuvent connaître les jeunes français actuellement, qu'ils soient étudiants ou non. Ce cours peut donc donner aux étudiants japonais une image concrète de leurs homologues français et leur faire découvrir les conditions de vie en France.</p> <p>このクラスは3・4年生向けで、比較的簡単で短めのテキストを理解し、説明できるようになることを主な目標とします。テキストは現代のフランスの学生やその他若者が直面している社会問題や日常生活について書かれたものを使用します。この授業を通して日本の学生達には同じ年代のフランス人達について具体的なイメージを持ち、フランスでの生活の状況を発見してもらいたいと思っています。</p>		<p>Au cours du premier semestre, nous travaillerons sur des textes courts. Nous utiliserons, bien entendu, des articles de journaux simples comme ceux provenant de sources telles que le «<input type="checkbox"/>Journal des enfants<input type="checkbox"/>», «<input type="checkbox"/>20 minutes<input type="checkbox"/>», «<input type="checkbox"/>Métro<input type="checkbox"/>», «<input type="checkbox"/>Le Parisien<input type="checkbox"/>» ...</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sources multiples d'articles de journaux, de dialogues de films, de musiques, de publicités... 新聞の記事や映画のダイアログ、歌や広告など、様々な資料を使用します。		評価方法：L'évaluation s'effectuera par des devoirs de compréhension de texte. Nous demanderons de rendre trois devoirs sur des textes préparés à la maison et nous évaluerons aussi la participation et la lecture en classe.授業への出席と3回の宿題によって評価。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	M.デルヴロワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours, destiné aux étudiants de troisième et de quatrième année, vise principalement à développer les compétences de l'étudiant pour expliquer et comprendre un texte court en français d'un niveau relativement facile. Nous utiliserons des textes français qui montrent essentiellement le mode de vie quotidien et les problèmes sociaux que peuvent connaître les jeunes français actuellement, qu'ils soient étudiants ou non. Ce cours peut donc donner aux étudiants japonais une image concrète de leurs homologues français et leur faire découvrir les conditions de vie en France.</p> <p>このクラスは3・4年生向けで、比較的簡単で短めのテキストを理解し、説明できるようになることを主な目標とします。テキストは現代のフランスの学生やその他若者が直面している社会問題や日常生活について書かれたものを使用します。この授業を通して日本の学生達には同じ年代のフランス人達について具体的なイメージを持ち、フランスでの生活の状況を発見してもらいたいと思っています。</p>		<p>Au cours du premier semestre, nous travaillerons sur des textes courts. Nous utiliserons, bien entendu, des articles de journaux simples comme ceux provenant de sources telles que le «<input type="checkbox"/>Journal des enfants<input type="checkbox"/>», «<input type="checkbox"/>20 minutes<input type="checkbox"/>», «<input type="checkbox"/>Métro<input type="checkbox"/>», «<input type="checkbox"/>Le Parisien<input type="checkbox"/>»...</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sources multiples d'articles de journaux, de dialogues de films, de musiques, de publicités... 新聞の記事や映画のダイアログ、歌や広告など、様々な資料を使用します。		評価方法：L'évaluation s'effectuera par des devoirs de compréhension de texte. Nous demanderons de rendre trois devoirs sur des textes préparés à la maison et nous évaluerons aussi la participation et la lecture en classe.授業への出席と3回の宿題によって評価。	

交 流 文 化 論

(09年度以降入学者)

09年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。</p> <p>近年、成長の持続化の追求から、持続可能な社会を形成しようとするパラダイムシフトの兆しがみられます。環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。</p> <p>本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えしていきます。</p> <p>なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. マスツーリズムとサステイナブル・ツーリズム 3. 開発と持続可能性概念 4. 地球環境問題 5. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産） 6. エコツーリズム（歴史と概説） 7. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例） 8. エコミュージアム（歴史と概説） 9. LOHAS（ロハス）と観光 10. 欧米のグリーンツーリズム 11. ビデオ（水俣病）（予定） 12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開） 13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾 14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流） 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。</p>		<p>期末試験（90%）、学期中課題（10%）、出席点（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。</p> <p>講義概要 国際会議、博覧会やイベントとは何か、その歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。</p> <p>講義では、国際会議、博覧会、イベントを中心に観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. イベント・コンベンションの発生と発展 3. イベント・コンベンションとは① 4. イベント・コンベンションとは② 5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向 6. イベント・コンベンションの仕組みと実務① 7. イベント・コンベンションの仕組みと実務② 8. イベント・コンベンション産業① 9. イベント・コンベンション産業② 10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備 11. コンベンション・ビューローの役割と機能 12. イベント・コンベンションの推進機関 13. イベント・コンベンションの課題と展望① 14. イベント・コンベンションの課題と展望② 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『イベント&コンベンション概論』（JTB総合研究所）その他は適宜指示する。</p>		試験結果に基づいて評価する。	

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>我が国は人口減少社会に突入しているが、世界の人口は今後も増加を続けると想定されている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で、他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まることになる。このような環境下で近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空事業は成長と同時に大きな変化の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。</p> <p>我が国における航空産業は、航空輸送産業と航空機製造産業に分かれ行政区分も異なる。しかしながら、世界の実態は、航空輸送と航空機製造が一体となって、国家を支える構造にあることから、航空の各領域の解説に加え、航空輸送と航空機製造の極めて強い連携の構造についての解説も行う。</p> <p>尚、時間に余裕があれば、航空産業におけるキャリア形成についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（講義概要、進め方、評価など） 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリア形成 4. 航空における世界の歴史 5. JALとANAの登場と成長 6. LCC（低コスト航空会社） 7. アライアンス 8. 航空産業の課題について（ディスカッション） 9. 航空政策とJALの破綻と復活 10. オープンスカイと規制緩和 11. 航空安全 12. 航空機製造ビジネス 13. 航空産業の特性と航空運賃 14. 空港、および国際航空法 15. 講義全体の“まとめ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト（教科書）：『最新 航空事業論』（2013年2月 日本評論社）</p> <p>（注）受講生は、事前に予習しておくことを薦める。</p>		<p>ディスカッションなど講義参画：30%</p> <p>最終試験：70%</p>	

09年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	横村 出
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアの記事の特質は、より多くの事実を、より正確に、より多くの人に伝えることである。そのためには、深い取材、情報の真偽の峻別、さらに実践に裏打ちされた確かな文章力が必要である。</p> <p>文章の難しさは、単に経験や訓練を積み上げ上達するものではないということだ。記事を書くことの根底には、個人として、ジャーナリストとしての確たる「ものの見方」が不可欠である。</p> <p>ものの見方には、書き手の全人格が投影されると言っている。いかなる力にも影響されない独立心はあるか、その心は外へ向かって開かれているか、バランス感覚を失っていないか。この3つの心構えを理解し、記事を書くための基礎的な知識を習得してもらう。</p> <p>新聞業界の現状についても言及する。今後、新聞紙から電子ペーパーへ媒体が変貌しても、文字情報の重要性は変わらない。日々発信される記事の功罪を具体例を交えて検証し、情報を正しく理解するための力も養ってほしい。</p> <p>講義では、文章力を高めるために実践的に参加してもらう。各人がルポルタージュのテーマを決めて意欲的に取材し、授業で発表してもらいたい。独創的なものの見方を文章で表現し、より広く伝えることの喜びを分かち合いたいと思う。受講者は新聞必読、英語力も必要。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 新聞記事の読み方 3. ジャーナリズムと新聞の役割 4. ルポルタージュとは何か 5. ルポルタージュの方法①ー取材 6. ルポルタージュの方法②ーインタビュー 7. ルポルタージュの方法③ー確認 8. 課題ルポルタージュのテーマ選定 9. どのように書くかー心構え 10. どのように表現するかー表現の工夫 11. どのように伝えるかー構成の仕方 12. ルポルタージュの影響カーク国内編 13. ルポルタージュの影響カーク国際編 14. 課題ルポルタージュの中間発表 15. デジタル時代の表現手法について 	
テキスト、参考文献		評価方法	
すぐれたルポルタージュ作品などを随時推薦する。		授業における課題ルポルタージュの成果（70%）と出席・質疑応答などの実績（30%）で評価する。	

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。</p> <p>講義概要</p> <p>旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。旅行業の発展経緯と機能役割、商品形態等について重点的に触れ、又、IT時代における旅行ビジネスの今日的課題及び将来像についても考察する。</p> <p>宿泊産業では、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホテル業のサービスの実態についても学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要・旅行市場の現状 2. 旅行業の機能・役割 3. 旅行業の歩み① 4. 旅行業の歩み② 5. 旅行業の商品と形態 6. 旅行業法と消費者保護 7. 旅行業界の現状と課題 8. 旅行業の今後 9. ホテル業とは・ホテル業の分類 10. 欧米におけるホテル業の歴史 11. 日本におけるホテル業の歴史 12. ホテル業の動向 13. ホテルの組織と経営特性 14. ホテル業界のホスピタリティー 15. ホテル業の今後・講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。</p> <p>参考文献：適宜指示する。</p>		<p>試験結果に基づいて評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定） 15. 講義のまとめと試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（90%）、学期中課題（10%）、出席点は+α。	

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。</p> <p>近年、alternative（もう1つの）という言葉の時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。</p> <p>この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>（参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 5. 教育・学び・文化 6. ジェンダーとフェミニズム 7. 宗教と社会開発 NGO 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO等で各自購入してください</p> <p>（参考文献）上欄を参照。</p>		<p>期末試験（60%）、学期中課題（40%）、出席点（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムを作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. グローバリゼーションの民族誌 1 3. グローバリゼーションの民族誌 2 4. 観光の誕生 5. ビデオ上映 6. 表象の政治学—情報資本主義と観光 7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 9. 文化装置としてのホテル 10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 11. セックス・ツーリズム—タイの事例 12. 少数民族と観光—タイの事例 13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」 14. 他者との協働を目指して：北海道アイヌ観光の現在 15. まとめ・予備日 <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末テスト(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、ツーリズム産業の現状や課題を理解することを目的とする。特に、ツーリズム産業のけん引役である旅行産業におけるビジネスの実態を理解することも主要目的の一つである。</p> <p>我が国は、高度成長期以降、製造業が我が国経済のけん引役であったが、新興国の台頭により、その役割が低下している。一方、ツーリズム産業に代表されるサービス産業（第三次産業）の重要性が高まりつつある。しかし、このような方向性にはあるものの、我が国の少子高齢化・人口減少、また国際競争の激化、インターネットの普及拡大などで、ツーリズム関連産業も従来型のビジネスから脱し、新たな成功モデルの構築が求められている。</p> <p>本講義においては激しく変動する我が国及び世界のツーリズム市場を理解し、その動きの中におけるツーリズム産業の現状の理解、特にマネジメントに関わる知識の習得を目指している。より深く理解するために、「ツーリズム産業発展のための新たな処方箋は何か？」とのテーマで、ディスカッションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（講義概要、進め方、評価など） 2. 世界の動きとツーリズム、観光産業の課題 3. ツーリズムと企業マネジメントの基本 4. ツーリズムと企業会計 5. ツーリズムとマーケティング 6. ツーリズムと価格政策（プライシング） 7. 旅行会社の構造について 8. ツーリズムにおける商品企画 9. ツアーの手配とツアーの流れ、およびコンダクターの役割など（タイムマネジメントの考察も行う） 10. ツーリズムと旅行業法 11. ツーリズムと世界各地の文化、宗教、その他魅力 12. ツーリズム産業発展のための新たな処方箋は何か？（ディスカッション） 13. 新しいツーリズム商品の企画（1）（プレゼンテーション） 14. 新しいツーリズム商品の企画（2）（プレゼンテーション） 15. 講義全体の“まとめ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		出席、発表、受講姿勢など講義参画：70% レポートとプレゼンテーション：30%	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、ツーリズムにおける政策、及び課題を理解することを目的とする。ツーリズム政策は、国家の主要政策の一つで世界各国、各地域において推進されてきたが、世界がグローバル化する今日、その重要性がさらに高まっている。我が国では戦後の高度成長期を主にモノづくり産業が牽引してきたことから、これまでのツーリズム政策が必ずしも充分ではなかったとの評価もあるが、このような評価も踏まえながら、出来るだけ多様な視点からツーリズム政策を分析すると同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>ツーリズム政策は単に、レジャーの領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション、また受講生自ら新たなツーリズム政策の構築に挑戦するなどの試みを通して、より深く理解することを求めている。</p> <p>尚、時間に余裕があれば、ツーリズムの領域におけるキャリア形成についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（講義概要、進め方、評価など） 2. ツーリズム政策の目的（観光立国など） 3. ツーリズム政策の歴史（景観法、リゾート法など） 4. 世界におけるツーリズム政策 5. ツーリズム政策と観光資源、クールジャパン政策 6. 我が国の魅力について（ディスカッション） 7. 地域振興政策（着地型観光、観光特使制度、フィルムコミッション、ニセコ、旭山動物園の成功など） 8. ツーリズム政策の基礎と制度 9. ツーリズム政策と情報制度 10. 世界遺産、グリーンツーリズム、メディカルツーリズム、ソーシャルツーリズムなど 11. ツーリズムと多様性、異文化交流、男女共同参画 12. ツーリズム産業とキャリア形成、就職活動 13. 新しい地域振興策（1） （プレゼンテーション） 14. 新しい地域振興策（2） （プレゼンテーション） 15. 講義全体の“まとめ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		出席、発表、受講姿勢など講義参画：70% レポートとプレゼンテーション：30%	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を考察し、観光の多様性を理解する。</p> <p>講義概要 観光を、擬似イベント、イメージ、メディアの視点から考察し、観光現象を多面的に理解する。</p> <p>併せて、貧困ツーリズム、戦場ツーリズムに見る観光形態の多様性や、バリ島の観光開発の光と影に触れ、文化の変容についても考える。又、ディズニーランドを模型文化としての視点より考察し観光現象の多様性を学ぶ。</p> <p>近年若者の海外旅行離れが懸念されているが、その現象を観光メディアの視点から考えてみたい。</p> <p>又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化、観光関連業界の報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. 文化への新しいアプローチとしての観光 3. 観光の誕生・擬似イベントとしての観光 4. メディアと観光・イメージの形成とメディア 5. バリ島観光開発の植民地政策と文化の流れ 6. 楽園バリ島誕生の形成と文化の流れ 7. 観光文化のグローカル化と商品化 8. 文化観光と観光行動（疑似体験としての観光旅行） 9. 疑似体験としての貧困・戦場ツーリズム 10. 文化の商品化と観光文化・観光芸術 11. 模型文化とディズニーランド 12. ディズニー化とマクドナルド化 13. 観光メディアと旅行市場形成 14. 観光メディアと海外旅行 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『観光文化学』（山下晋司編）新曜社 その他は適宜指示する。</p>		<p>試験結果に基づいて評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>パフォーマンス研究（Performance Studies）は、定義や体系化を拒否する反・学問だという人もいます。だから説明するのはちょっと難しいのですが、簡単にいえばパフォーマンスという概念を、演劇の上演や音楽の演奏といった芸能の分野に限定せず、文化、社会、歴史など、より広い領域に応用しようとする研究の姿勢を指します。</p> <p>例えばアイデンティティについて考えてみましょう。アイデンティティって生まれた時から各自が持っているものではないですよね？アイデンティティは、家庭から学校、職場などで、個人の外部からのさまざまな働きかけによって形成されます。こうした働きかけをパフォーマンスとして捉え、アイデンティティ構築の過程を分析することは、パフォーマンス研究の課題の一つです。もう少し拡大して考えれば社会は無数のパフォーマンスから構成されているといえます。</p> <p>2回目の授業で簡単なレポートを提出してもらいます。課題の内容は講義支援システムに掲載しておくので、1回目の授業に出ていない人も、教員名「高橋雄一郎」で検索して、必ず2回目の授業で提出してください。提出がない場合は、登録がなされていても、評価はFになります。</p>		<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：パフォーマンス研究の系譜</p> <p>第3回：パフォーマンス研究の系譜</p> <p>第4回：パフォーマンス研究の系譜</p> <p>第5回：演劇と文化人類学</p> <p>第6回：演劇と文化人類学</p> <p>第7回：演劇と文化人類学</p> <p>第8回：記憶と表象のパフォーマンス</p> <p>第9回：記憶と表象のパフォーマンス</p> <p>第10回：ジェンダーとパフォーマンス</p> <p>第11回：ジェンダーとパフォーマンス</p> <p>第12回：パフォーマンスとコミュニティ、民族、国家</p> <p>第13回：パフォーマンスとコミュニティ、民族、国家</p> <p>第14回：パフォーマンスと現代思想</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋雄一郎・鈴木健編『パフォーマンス研究』（世界思想社）、参考文献（英語文献も含む）は別途指示する。		学期中の小レポートと学期末レポートの合計。但し、2回目の授業で提出するレポートが未提出の者には単位を認定しない。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	倉澤 治雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義の目的</u> 「国際社会」は冷戦の終結後も政治、経済、宗教、領土、人権などをめぐって軋轢が絶えず、「波乱の時代」となっています。 一方、移動やコミュニケーションの手段は革新的な発展を遂げており、世界はますます狭くなりつつあります。 講義では、まず「メディア」の特性や社会での役割などを整理したうえで、「ツーリズム」との連携について考察します。 また「ツーリズム」と「メディア」のコラボレーションによって、国際社会での相互理解、平和と安定の維持、人間の創造力の開拓にどのように貢献できるか考えます。</p> <p><u>講義概要</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「メディア・コンテンツ」産業の現状と制度の枠組みについて、論文を中心に紹介します。 「ツーリズム」と「メディア」の連携によって、政治、経済、文化、芸術などに与えた影響を、映像メディアを駆使して位置づけます。 常に国際社会の動向に敏感であるため、時事問題について、新聞記事を中心に解き明かします。 「メディア」を利用した新しいツーリズムについて構想します。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と方法論。取り上げるテーマなどについて。 2. 日本のメディア・コンテンツ産業の現状と課題 13兆円といわれるメディア産業の実態 3. ジャーナリズムについて 「構成の原則」などジャーナリズム論入門 4. ツーリズムとメディアの歴史的関係 「エジプト」「ギリシア」から「アンコール」まで 5. ネットメディアの現状と課題 ネットメディアのリテラシーについて考察 6. マスメディアの現状と課題 7. ソーシャルメディアとツーリズム 8. キュレーションの時代 「情報」から「目利き」へ 9. メディア論の立場からツーリズムを考える 10. 国際社会とツーリズム・メディア メディアに現れる国際情勢とツーリズムの関係 11. 環境問題をツーリズムとメディアの立場から考える 12. コンテンツ・ツーリズムと地域活性化 地域活性化とコンテンツについて実証的に検証 13. アートとしてのツーリズム 14. 「見えない国」と「行けない国」を見る 国際情勢と新しい観光資源 15. 新しいツーリズムとメディアのコラボレーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しません。授業に使う記事、論文、映像などは用意します。必要なときに文献を紹介します。</p>		<p>期末定期試験 50% 毎回行う演習への参加 50%</p>	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における<u>諸現象を考えられるようになる</u>こと、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社</p>		<p>期末試験（90%）、学期中宿題（10%）、出席点（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 地域とは何か、発展とは何か 3. 住民参加の意義と多義性 4. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ 5. 組織・制度化、学習プロセス：山形県の事例 6. 地域づくりにおけるキーパーソン：兵庫県の事例 7. 内発的発展と外来型開発 8. 共益から公益の創出へ：NYと東京の事例 9. ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』 10. 地域づくりとまなざしの多様性：島根県の事例 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 援助の事例 12. ソーシャル・キャピタル 13. ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』（予定） 14. まとめ：まちづくりは人づくり 15. 試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO等で各自購入してください</p>		<p>期末試験（80%）、学期中課題（20%）、出席点（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略 5. 環境主義の商品化—エコリゾート 6. 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 7. 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 8. ビデオ上映（バックパッカーの窮状） 9. 先住民と観光—北米イヌイットの事例 10. 先住民と開発—開発的遭遇 11. 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として 15. ダーク・ツーリズムの現状と可能性—西アフリカの事例から <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

2013年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学者用)

03年度以降	総合講座（人が世界を変える）	担当者	コーディネーター 片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「一人の人間にできることには限りがある」という言い方があります。しかし歴史を見てみると、一人の人物が大きく世界を変えたり、あるいは小さくても意味のある変化をもたらしたりしている事例はたくさんあります。どんなとき、どんな条件が揃うと、人は大きなパワーを出せるのでしょうか。この総合講座では、こうした問いについて先生方といっしょに答えを探ります。オムニバス方式で、ほぼ毎回、外国語学部の先生方およびゲスト講師の方々をお招きして、一人の人物についてのお話を伺います。ゲスト講師の方には、世界を変えるためのご自身の活動について語ってもらうこともあります。</p> <p>春学期は古い時代から20世紀の人物まで通史的にたどります。個々の人物について学びつつ、世界史の大きな流れをみんなで実感できたらいいと願っています。右側「授業計画」欄に各回の予定を挙げます（敬称略、カッコ内は所属学科や大学）。順番とタイトルは変更することがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 片山亜紀（英語）：ガイドダンス 2. 木村佐千子（ドイツ語）：ルターと音楽 3. 木村佐千子（ドイツ語）：ベートーヴェンと交響曲 4. 江花輝昭（フランス語）：ルイ14世—イメージとしての権力 5. 矢羽々崇（ドイツ語）：グリム兄弟とメルヘンの「発明」 6. 片山：メアリ・ウルストンクラフトが生まれていなかったら 7. 田村奇敏（本学非常勤講師）：ワーズワスとフランス革命 8. Jack Wendel（英語）：Darwin and Revolution in Science 9. 日野克美（交流文化）：鶴見祐輔と日米関係 10. 福田美雪（フランス語）：ブシコー夫妻とデパートの誕生 11. 崔炳美（韓国文化院）： 近代国家を目指した金玉均（キムオッキョン）の三日天下 12. 工藤和宏（英語）： もうひとつの日米関係—W・J・フルブライトが遺したもの 13. 本橋エレン（英語）：Beate Sirota Gordon: A Champion for Both Japanese Women & Japanese Arts 14. 上野直子（英語）：帝国の裏庭からミレニアムのロンドンへ（仮） 15. 片山：まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜紹介する		レポート点（約30%）、学期末試験（約70%） *ただし4回を越える欠席は評価対象としない	

03年度以降	総合講座（人が世界を変える）	担当者	コーディネーター 佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「一人の人間にできることには限りがある」という言い方があります。しかし歴史を見渡してみると、一人の人物が大きく世界を変えたり、あるいは小さくても意味のある変化をもたらしたりしている事例はたくさんあります。どういとき、どんな条件が揃うと、人は大きなパワーを出せるのでしょうか。また、ある人がなしたことは、どのように他の人たちに伝わっていくのでしょうか。</p> <p>この総合講座では、こうした問いについて先生方といっしょに答えを探ります。オムニバス方式で、ほぼ毎回、外国語学部の先生方およびゲスト講師の方々をお招きして、一人の人物についてのお話を伺います。秋学期のゲスト講師の方には、世界を変えるためのご自身の活動について語ってもらいます。</p> <p>春学期が歴史を扱うのに対し、秋学期は現代を扱います。秋学期からの受講も歓迎しますが、全体の趣旨を理解した上で臨んでほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 佐野康子（英語）：ガイドダンス 2. 小池真美（JICA）：絵本を通じてトキの生息環境を変える 3. 北野収（交流文化）：フランツ・ヴェンデルホフとフェアトレード 4. 工藤和宏（英語）：偏見と闘う「図書館」 —Human Library 創始者 Ronni Abergel の挑戦 5. 大重光太郎（ドイツ語）： ヴィリー・ブランと戦後ドイツの政治と社会 6. 黒田多美子（ドイツ語）： 「戦後ドイツの歴史認識と教育：アードルフ・ヒトラーをめぐる」 7. 古田義文（ドイツ語）：ヘルムート・コールと欧州新秩序 —ドイツ統一から欧州統合 8. 天花寺宏美（NPO コペルニク日本支部）： BOP ビジネスで途上国の人々の暮らしを変える 9. 橋本直子（国際移住機：IOM）： 世界における人の移動の現状と IOM の活動 10. 原成吉（英語）：アメリカを変えた詩—Allen Ginsberg の“Howl” 11. 鈴木英一（英語）：ノーム・チョムスキーと人文科学の革命 12. 金子芳樹（英語）：鄧小平が変えた中国 —高度経済成長仕掛け人の功と罪 13. 谷口亜沙子（フランス語）： ココ・シャネル—服飾界における「皆殺しの天使」 14. 鈴木隆（フランス語）：近代的都市像を求めて —オスマン、ル・コルビュジェ、ハワード 15. 佐野：まとめ (カッコ内は所属。順番は変更することがあります) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜紹介する		レポート点（約30%）、学期末試験（約70%） *ただし4回を越える欠席は評価対象としない	

03年度以降	総合講座（EUの歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までのヨーロッパ統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つEU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。地域統合の歴史的な前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動(1) 3. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動(2) 4. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動(3) 5. 第2次大戦と欧州統合 6. 戦後復興と欧州統合(1) 7. 戦後復興と欧州統合(2) 8. ECSCの成立(1) 9. ECSCの成立(2) 10. EECの成立(1) 11. EECの成立(2) 12. EECの定着期(1) 13. EECの定着期(2) 14. EECの定着期(3) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、70%）と期末レポート（30%）</p>	

03年度以降	総合講座（EUの歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EUの歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 通貨統合(1) 3. 通貨統合(2) 4. 通貨統合(3) 5. マーストリヒト条約以降のEU(1) 6. マーストリヒト条約以降のEU(2) 7. EUの制度 8. EUの政策(1) 9. EUの政策(2) 10. EUの政策(3) 11. 加盟国とEU(1) 12. 加盟国とEU(2) 13. 加盟国とEU(3) 14. EUの課題 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、70%）と期末レポート（30%）</p>	

03年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム (OS) 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11. 機械翻訳システムの演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPointの各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPointの各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理 1)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的と概要】</p> <p>この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行います。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」(learner language)であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なります。また、同じ学習者でも英語力が高い人と低い人の発話は多面的に異なります。しかし、一般的にそれらの違いは「何となく違う」という印象にとどまってしまう。そこでコンピューターを用いて数量的・質的に言語を分析することにより、たとえば語彙的観点、文法的観点、誤りの観点、流暢さの観点から学習者言語の特徴を見つけ出すことが可能になります。</p> <p>この授業は、コンピューターによる言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とします。それにより、言語に対する洞察力を深め、また自分自身の英語力を振り返ることも可能になるでしょう。</p> <p>各人がコンピューターを使い、演習を中心に授業を進めます。自分で学習者言語データを分析し結果をプレゼンテーションする、レポートにまとめることも課題となります。春学期は書き言葉(英文エッセイ)を分析します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】 2. 大学生による英語エッセイデータの紹介 3. 語彙・コロケーション分析 4. 品詞タグ付与の方法 5. 品詞分析 6. 品詞連鎖分析 7. 文法分析 (1) 8. 文法分析 (2) 9. 誤り分析 (1) 10. 誤り分析 (2) 11. 流暢さ分析 12. プレゼンテーション準備 (1) 13. プレゼンテーション準備 (2) 14. プレゼンテーション (1) 15. プレゼンテーション (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席、授業活動への参加度、プレゼンテーション、レポートによる	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理 2)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【概要と注意点】</p> <p>目的は春学期と同様です。</p> <p>秋学期は話し言葉(英語によるインタビューにおける学習者の発話)の分析を行います。受講生の皆さんに実際にデータ収集と集めたデータのコンピューターデータベース化(コーパス化)を行っていただきます。そのため、授業外活動も大いに含まれますのでその点を了承して下さい。</p> <p>また、データ分析の方法を授業内で説明はしますが、春学期の「復習程度」に留めますので、春学期の言語情報処理 Ia を履修した上での登録が望ましいです。春学期を履修せずに受講を希望する場合は；</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ コンピューターの操作が得意であること ■ 言語学の基本的な知識が身につけていることを前提とします。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】 2. 日本人学習者による英語発話データの紹介 3. 英語インタビューテストの紹介 4. 英語インタビューの練習 【データ収集】 5. データの書き起こし (1) 6. データの書き起こし (2) 7. データの加工 8. 語彙分析 9. 文法分析 10. 誤り分析 11. 流暢さ分析 12. プレゼンテーション準備 (1) 13. プレゼンテーション準備 (2) 14. プレゼンテーション (1) 15. プレゼンテーション (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席、授業活動への参加度、プレゼンテーション、レポートによる	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理 1)	担当者	吉成 雄一郎
講義目的, 講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ていたとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析(下に続く↓)</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</p> <p>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</p> <p>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</p> <p>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</p> <p>7 Excel 関数のネスト(1)</p> <p>8 Excel 関数のネスト(2)</p> <p>9 Excel 関数のネスト(3)</p> <p>10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</p> <p>11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</p> <p>12 データベース上のデータの蓄積方法</p> <p>13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</p> <p>14 データベースの活用</p> <p>15 まとめと演習</p>	
テキスト, 参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理 2)	担当者	吉成 雄一郎
講義目的, 講義概要		授業計画	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましよう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</p> <p>2 Access 上にデータを格納</p> <p>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</p> <p>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</p> <p>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</p> <p>6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習</p> <p>7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</p> <p>8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</p> <p>9 品詞の使われ方と英文の特徴</p> <p>10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー</p> <p>11 語彙の出現情報から何を読み取るか(1)</p> <p>12 語彙の出現情報から何を読み取るか(2)</p> <p>13 語彙の出現情報から何を読み取るか(3)</p> <p>14 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</p> <p>15 まとめと演習</p>	
テキスト, 参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

08年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む)</u>を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 総合課題 (2) 15 鑑賞・報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過を含む) で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。</p>	

03年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。春学期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、秋学期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得の分配 13. 政府による市場介入① 14. 政府による市場介入② 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

03年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。春学期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、秋学期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政・金融政策の有効性① 9. 財政・金融政策の有効性② 10. 財政赤字と政府債務 11. 国際金融システム 12. 開放マクロ経済下の経済政策 13. 景気の循環 14. 経済成長の決定要因 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

シラバス フランス語学科

2013年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	